



# 2023年6月期 決算説明資料

株式会社クオルテック 【証券コード：9165】



## 01

**電気系統に強い独立系検査会社として、自動車の電動化需要を最大限に享受**

- 電動化に不可欠とされるパワー半導体の検査における、圧倒的なポジショニング
- 開発スピードの速まりや検査偽装問題などにより、第三者評価に対するニーズは拡大

## 02

**パイロットライン機能により、対応市場・マネタイズポイントの拡大を実現**

- 検査に必須となる研磨工程の内製化により、短納期とワンストップソリューションを実現
- レーザ加工では、スマートフォン市場から自動車・ヘルスケア分野に展開し、受注を再拡大

## 03

**高度な技術力を有する人材と充実した設備群に支えられた効率経営**

- 固定費比率の高いビジネスであるため、人材と設備の質が利益に直結
- 「ゼロ思想」に基づく徹底した技術者育成と「未来品質」を追求した積極投資による充実した設備を確保



**独立系検査会社として、業界初の上場を機に、世界の規格整備をリードし、人々の安全とモノづくりを支える会社に**

# 目次

- 1 | 会社概要
- 2 | 事業概要
- 3 | 成長戦略
- 4 | 決算概要
- 5 | 業績予想
- 6 | 附録



# 1 | 会社概要

会社紹介



社名	株式会社クオルテック (Qualtec Co., Ltd.)		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電子部品の不良解析・信頼性試験の受託および新技術の開発</li> <li>●品質管理を中心とした工場経営、実装技術に関するコンサルティング</li> <li>●レーザ加工・表面処理（めっき）技術を中心とした微細加工</li> <li>●試験装置の設計・開発・製造・販売</li> </ul>		
設立	1993年1月18日	資本金	1億円
代表取締役社長	山口 友宏		
従業員数	230名（2023年4月末現在）		
本社所在地	〒590-0906 大阪府堺市堺区三宝町4丁230番地		
事業所所在地	本館(分析センター) 〒590-0906 大阪府堺市堺区三宝町4丁231-1 1号館(レーザ加工室・表面処理実験室) 〒590-0906 大阪府堺市堺区三宝町4丁230番地 2号館(研磨センター) 〒590-0906 大阪府堺市堺区三宝町4丁231番地 3号館(レーザ加工室) 〒590-0906 大阪府堺市堺区三宝町4丁234-1 4号館&5号館 〒590-0906 大阪府堺市堺区三宝町4丁230番地 6号館&7号館(信頼性試験センター) 〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町3丁27-6 8号館(パワエレ試験装置開発室) 〒590-0905 大阪府堺市堺区鉄砲町32-1 名古屋品質技術センター 〒470-1123 愛知県豊明市西川町笹原28-8 東京営業所 〒143-0013 東京都大田区大森南3-12-1 生化学分析センター 〒660-0083 兵庫県尼崎市道意町7-1-3 ARIC 304		
関連会社	SGSクオルテック株式会社 〒590-0906 大阪府堺市堺区三宝町4丁231-1		

大阪・堺市



愛知・豊明市

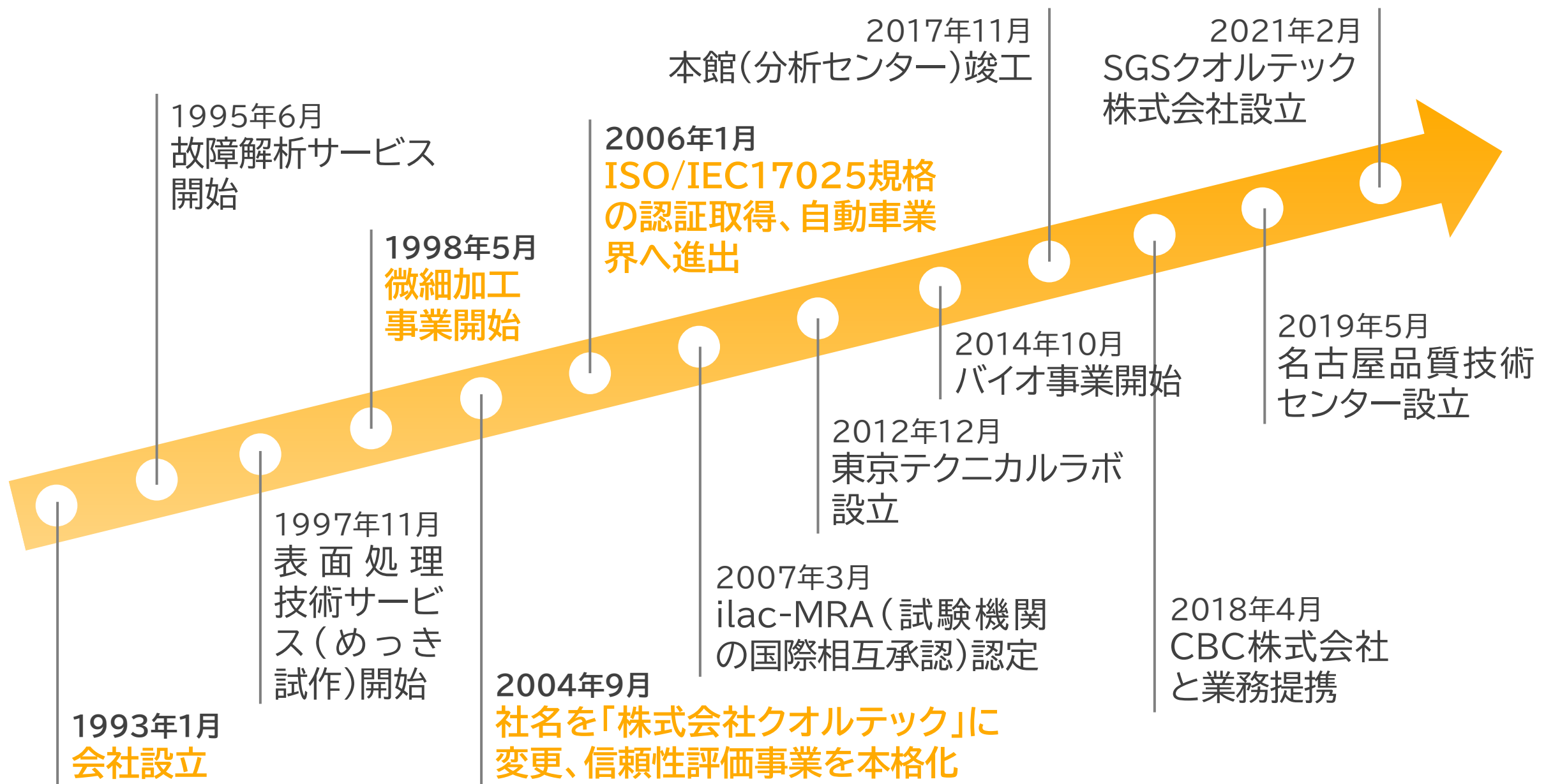


東京・大田区





トータルクオリティソリューションを提供  
クオルテックの歩み





代表取締役社長

## 山口 友宏

2005年3月、株式会社クオルテック入社

2020年4月、代表取締役社長就任(現職)

「まず感謝する。これ以上に、創造性や生産性を高めるのに重要な事はない。」

取締役

志方 哲明

社外取締役

石田 智也

トヨタ・愛三工業出身

執行役員

光崎 尚利

常勤監査役

藤田 昌伸

パナソニック出身

取締役

大江 準三

トヨタ出身

社外取締役

富田 和之

パナソニック出身

執行役員

酒井 信治

社外監査役

越本 幸彦

弁護士

取締役

長瀬 隆洋

執行役員

池田 康稔

パナソニック出身

社外監査役

古谷 礼理

会計士



assists your "thinking"

Qualtec

Quality + technology

品質

技術

当社のコア・コンピタンスは「品質技術サービス」にあります。

お客様にお届けするこのサービスは、

「信頼性評価事業」「微細加工事業」「その他事業」という3つの柱と、

「研究開発部門」が支えています。





安心・快適な未来社会の実現

# 「未来品質の創造」

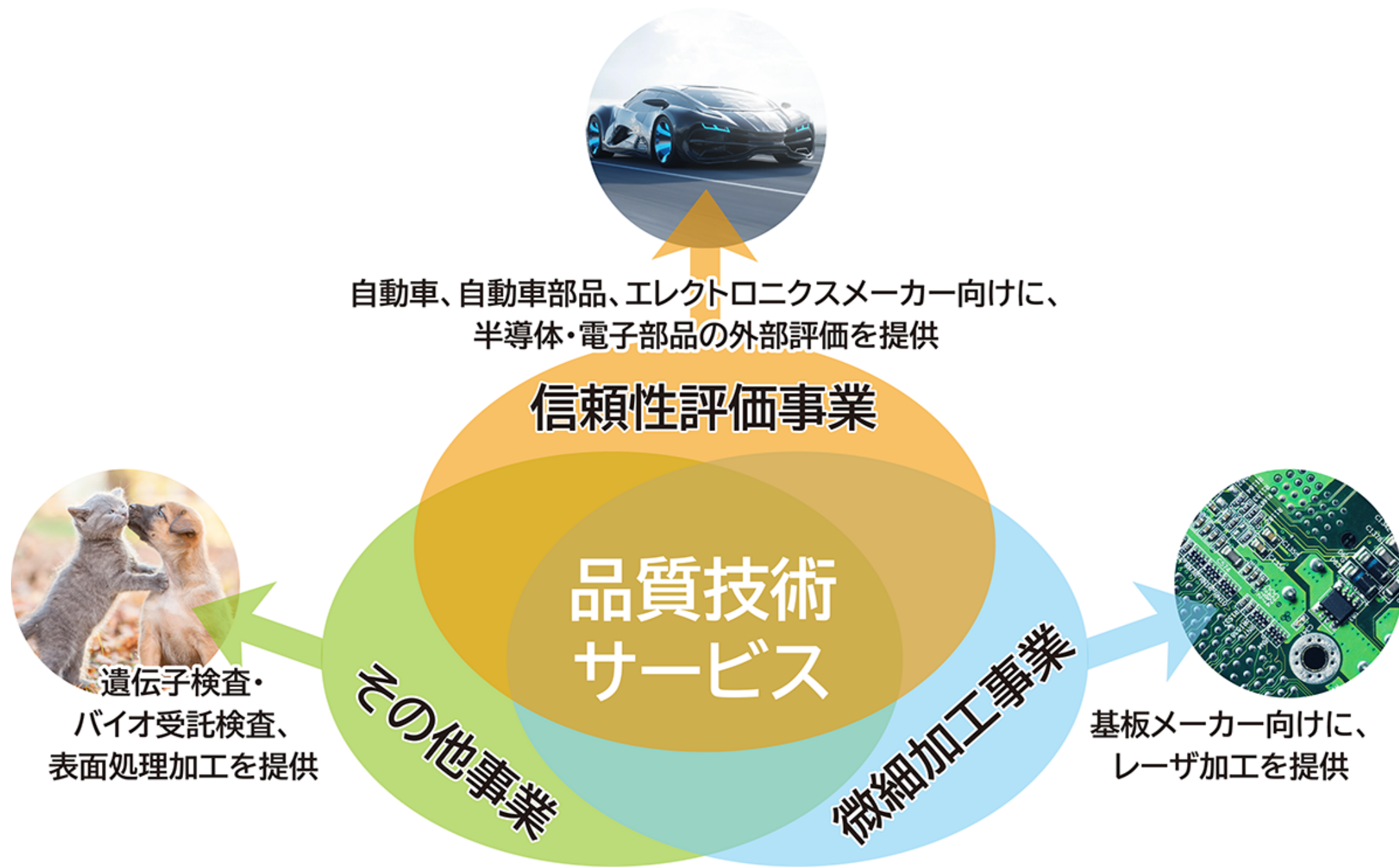
不良ゼロの工場や故障ゼロの製品。  
いわゆる絶対的品質を追求するゼロ思想に加え、  
空気を浄化しながら走る車、土に還る素材で作られたスマートフォンなど、  
自然を再生する「未来品質」を備えた製品づくりを、  
クオルテックの分析・評価、信頼試験、研究開発や微細加工の技術が、  
トータルにサポート致します。



## 2 | 事業概要

## 当社のコア・コンピタンス

当社のコア・コンピタンスは「品質技術サービス」。  
「信頼性評価事業」「微細加工事業」「その他事業」という3つの柱でお客様にサービスを提供。





信頼性評価のアウトソース需要の高まり

「いのち」に関わるプロダクトに対する  
各種評価試験の重要性が増大

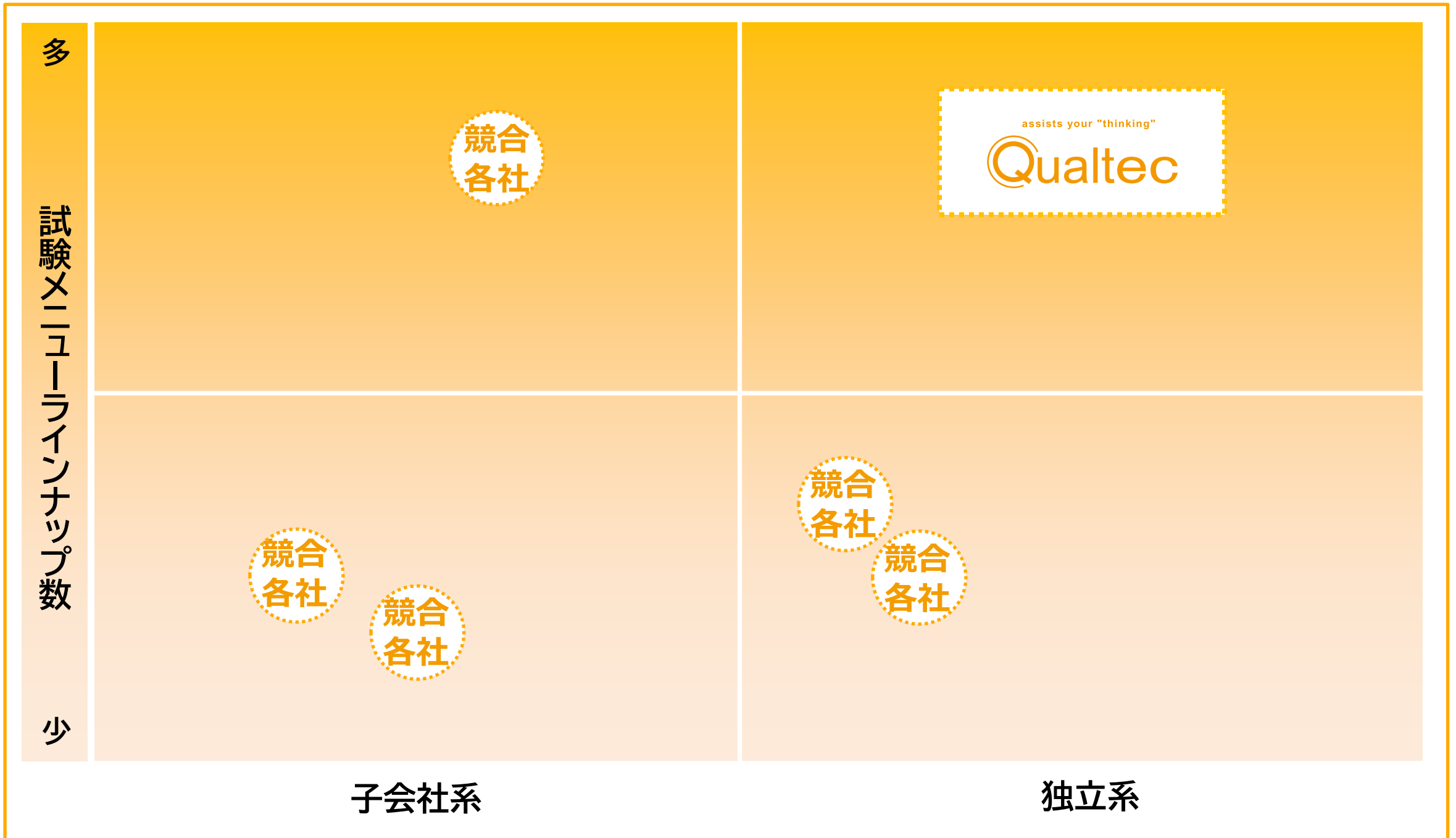
独立系検査会社の強み

信頼性 + 透明性 + 公平性

# ポジショニングマップ（試験評価・分析会社）



当社は**独立系試験評価会社**。  
独立系の中で当社は技術レベルが高く、試験メニューラインナップ数は業界最多レベル。



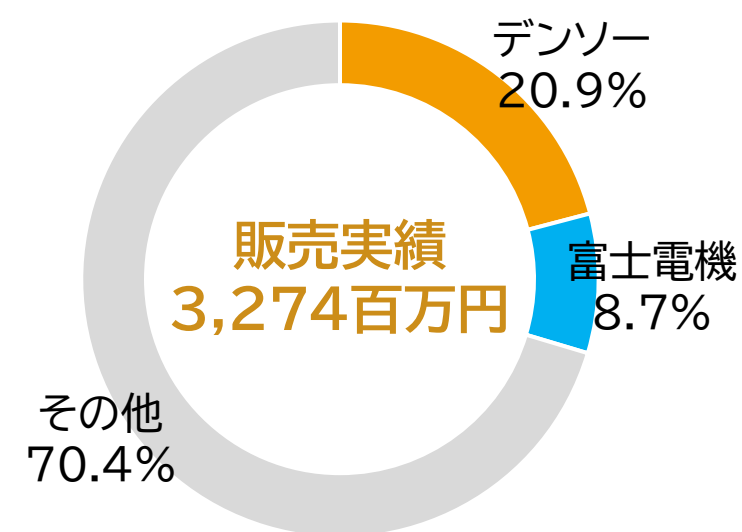
### 当社の顧客基盤

自動車・半導体業界の大手企業が当社のお客様。中でも、CASE (Connected、Autonomous、Shared/Service、Electricの略)などモビリティの変革をけん引する株式会社デンソー様は当社の主要顧客。

#### 当社の主なお客様

アイシン、味の素、オムロン、大阪ガス、クボタ、京セラ、GSユアサ、シマノ、シャープ、住友電装、ソニー、大丸興業、デンソー、デンソーテン、東芝、トヨタ自動車、豊田通商、日産自動車、日本オーチス・エレベータ、日本シイエムケイ、日本電気、任天堂、パナソニックグループ、富士電機、富士フイルム、船井電機、古野電気、ホシデン、堀場製作所、本田技研工業、マレリ、三菱自動車工業、三菱重工業、三菱電機、村田製作所、矢崎部品、ヤンマー、利昌工業、ローム(五十音順 敬称略)

#### 販売先の構成



※構成比率は2023年6月期

# 積極的な設備投資によるノウハウの蓄積

高度な分析には、性能の良い装置や設備が不可欠となり、以前から設備投資を実施。最先端の設備をはじめ、**110種以上、450台以上の設備**を保有。

## 信頼性評価事業



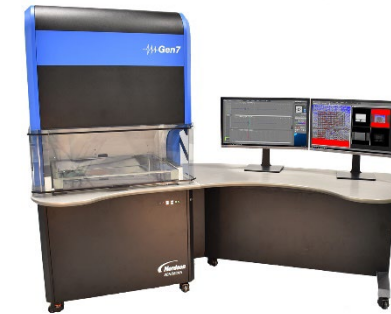
プラズマFIB



超高分解能電子顕微鏡



ロックイン発熱解析装置



超音波顕微鏡



反り測定装置



X線光電子分光装置



X線CT装置



冷熱衝撃装置

※エスバック製装置が一番多く、全体の3割を占める(96台/全312台)



恒温恒湿槽



大型複合振動試験機

## 微細加工事業



レーザー開封機



研磨装置



CO2レーザー加工機



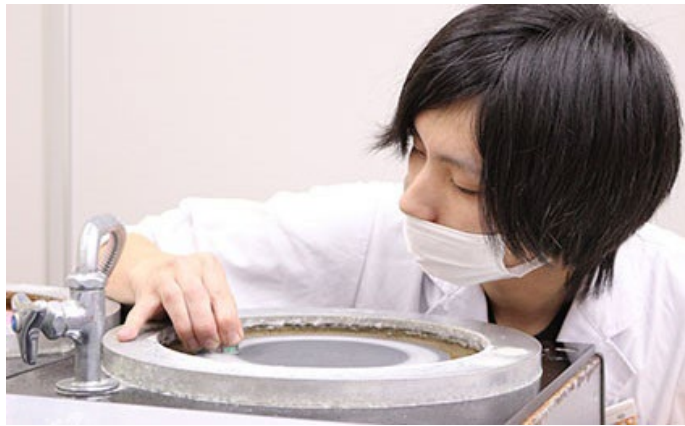
UV-YAGレーザー加工機



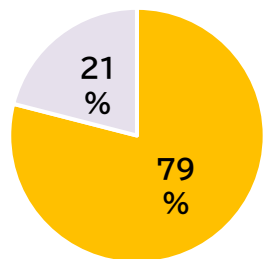
フェムト秒グリーンレーザー加工機

# キャリアと若さを両立した人的財産

キャリアと若さを両立した組織構成により、三世代による連携で業務を推進。  
ノウハウ・知見の蓄積と、技術力・分析力の錬磨を日々実施。

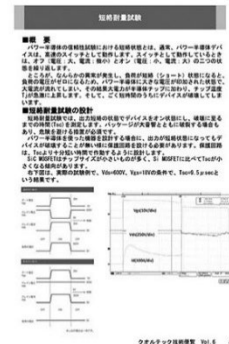
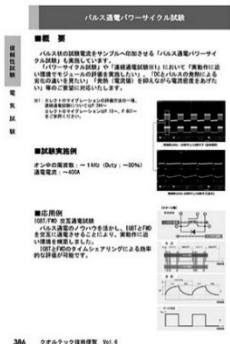
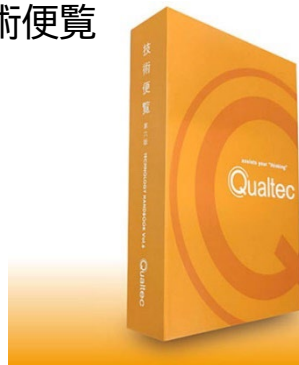


職種構成比率

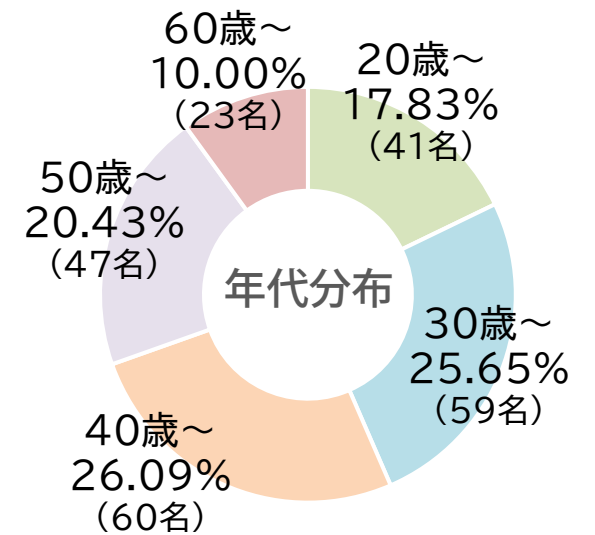


■ 技術・研究職 ■ 事務職

技術便覧

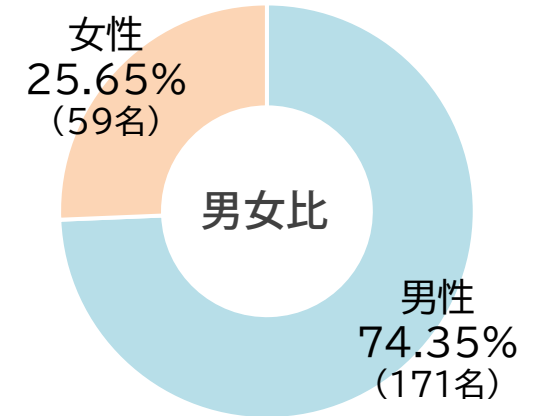


社員数 230名



年代分布

平均年齢 42.4歳



男女比

※構成比率は2023年4月現在



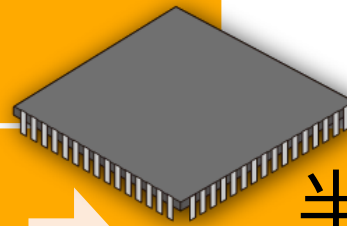


ワンストップで対応  
**約180種**

幅広い試験メニュー

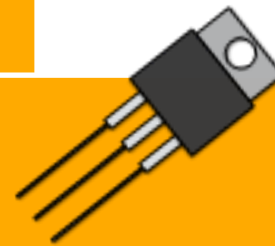
多種・多様な試験・分析が存在しますが、当社は技術力が高く、多くの試験・分析に対応可能です。当社のお客様であるメーカーサイドは、複数の試験をアウトソースするため、同一の会社で多くの試験を完結させられることを喜んでいただけるケースが多いです。

環境試験  
分析・故障解析



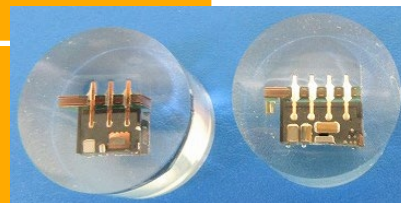
半導体・電子部品・プリント基板・  
PCU・新素材(合金・プラスチック)他

パワーサイクル試験  
※1



パワー半導体・電子部品  
※2

断面研磨

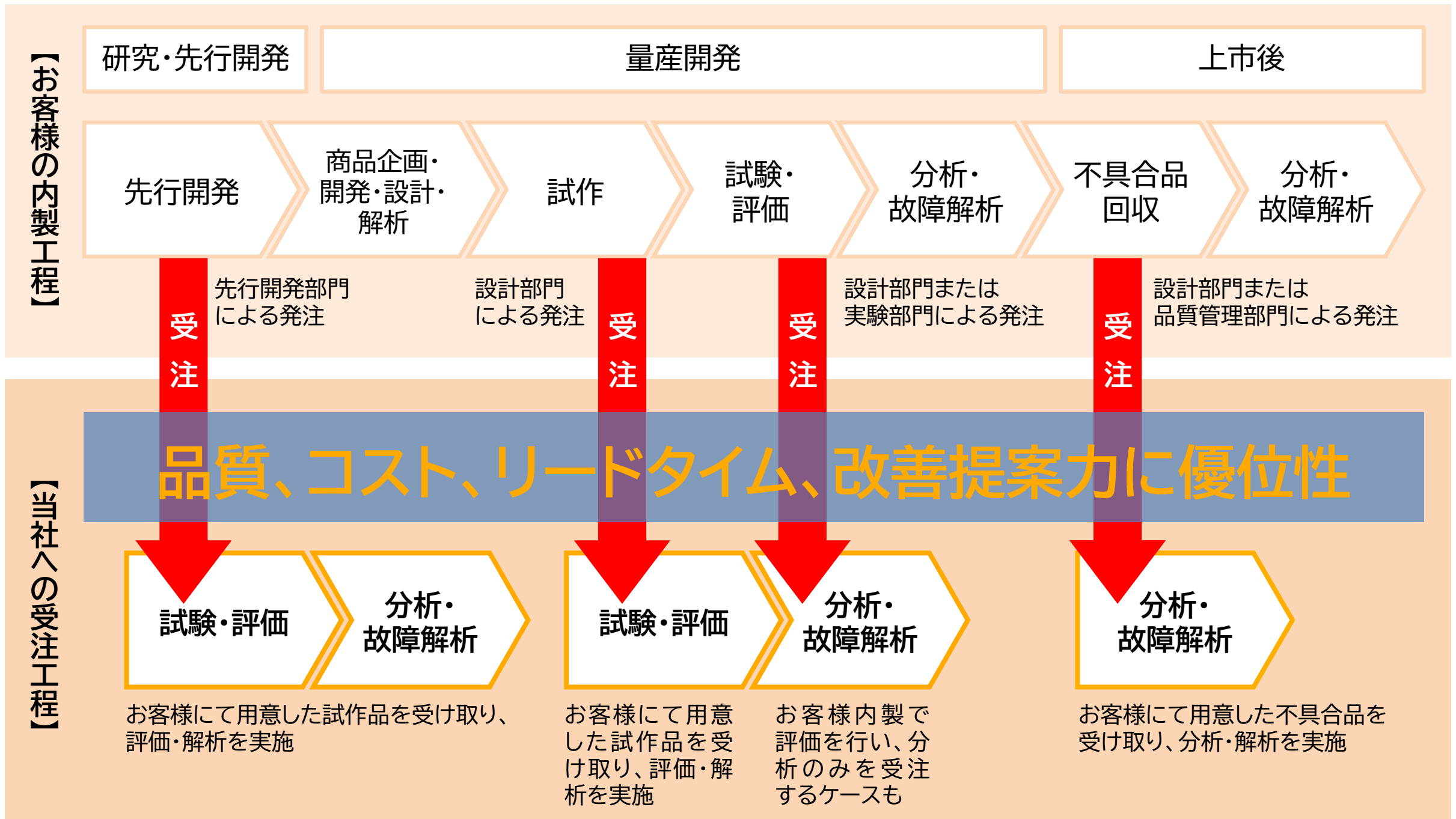


上記素材の切断と研磨加工

※1 パワーサイクル試験: パワー半導体モジュールに使用される各部材の接合信頼性を評価するための機器。  
※2 パワー半導体: 高電圧や大電流を取り扱うことができる半導体。

# 信頼性評価事業における顧客工程と当社受注について

顧客の先行開発から上市後まで**一気通貫**でカバー。先行開発から受注した案件は、量産開発や上市後も合わせて受注するケースが多く、**スイッチングコスト**が高い状況。





# 20年以上の 実績 24時間受付 32台保有

基板のレーザー加工はもちろん、短納期の試作品加工からビッグロットの量産加工まで受注しています。CO2レーザー加工、UV-YAGレーザー加工、フェムト秒グリーンレーザー加工により、特殊な材料の加工、工法が可能です。



CO2レーザー加工機



UV-YAGレーザー加工機



フェムト秒グリーンレーザー加工機

受注加工／ビルドアップ基板・フレキシブル基板・シリコンウェハ・セラミック基板他



# 遺伝子検査

# ヘルスケア製品 受託検査

## ◆遺伝子検査

犬・猫遺伝子疾患の原因遺伝子変異の検出サービスを行っております。

## ◆ヘルスケア製品受託検査

ヘルスケア関連製品(包装材料、シリンジなど)の受託検査を行っております。また、最先端の材料への処理を試作から量産まで請け負っております。



遺伝子解析装置



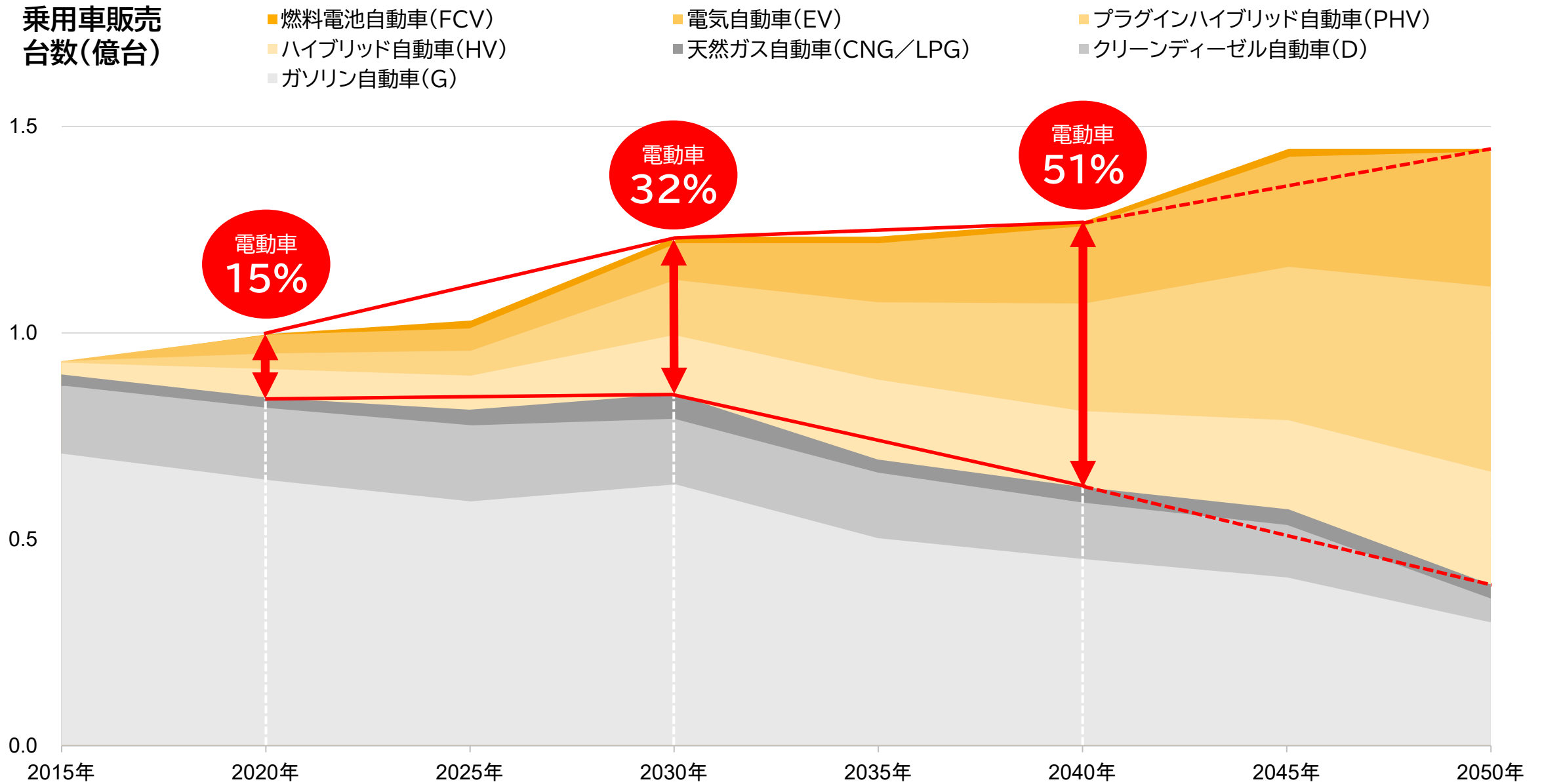
質量分析装置



## 3 | 成長戦略

# 信頼性評価事業：自動車の電動化の加速①

当社の信頼性評価事業は、自動車メーカーや車載部品メーカーなど、EV市場のお客様がメイン。自動車の電動化は、今後急激に拡大することが見込まれる。

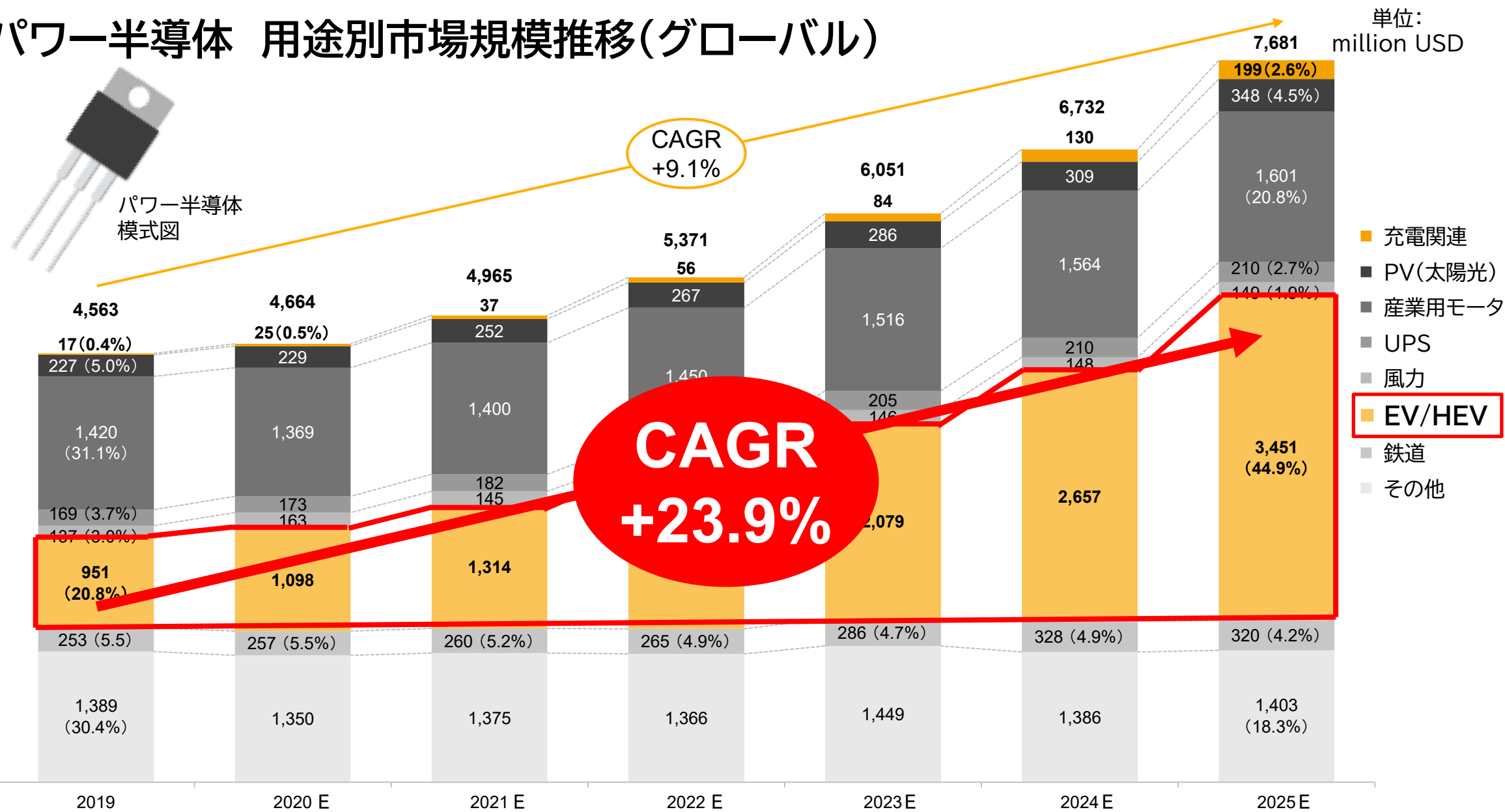


# 信頼性評価事業：自動車の電動化の加速②

自動車の電動化の加速において、もっともホットな市場となるのがパワー半導体。  
EV/HEV向けパワー半導体の年平均成長率は、2019年から2025年にかけて、23.9%の成長が見込まれる。

※P.16参照

## パワー半導体 用途別市場規模推移(グローバル)



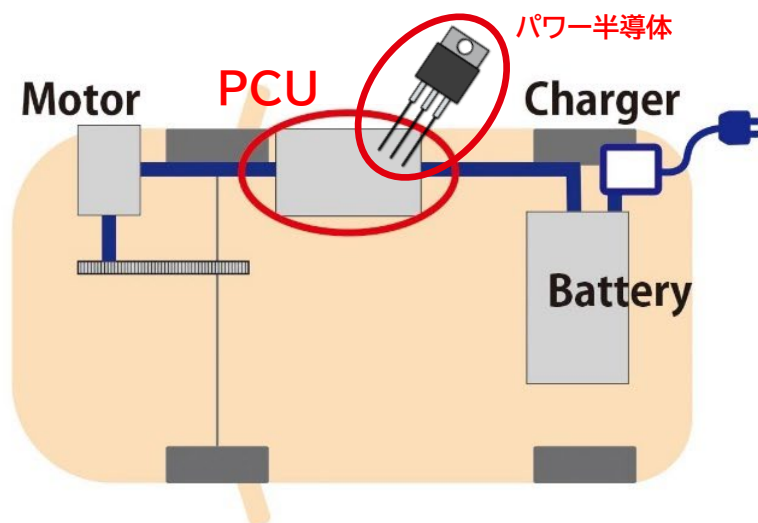
出所:『Status of the Power Electronics Industry Market and Technology Report 2020』Yole development



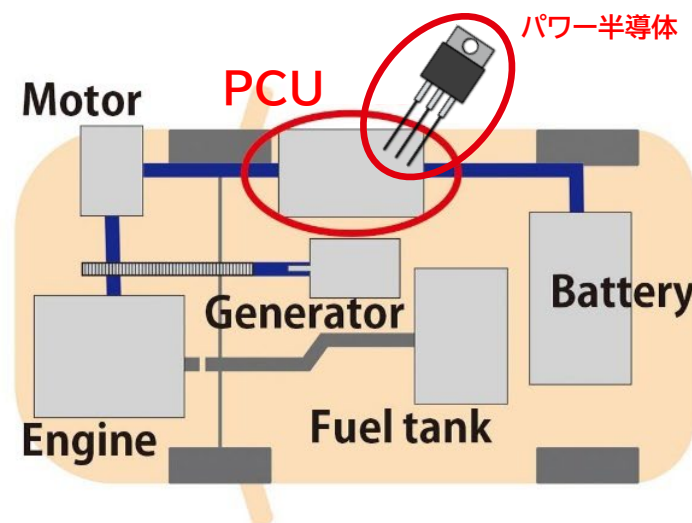
パワー半導体<sup>※P.16参照</sup>の評価で困ったらクオルテック

# どの電動車の実績が伸びても、 パワー半導体の信頼性評価試験<sup>※P.16参照</sup>(パワーサイクル試験)の需要増大

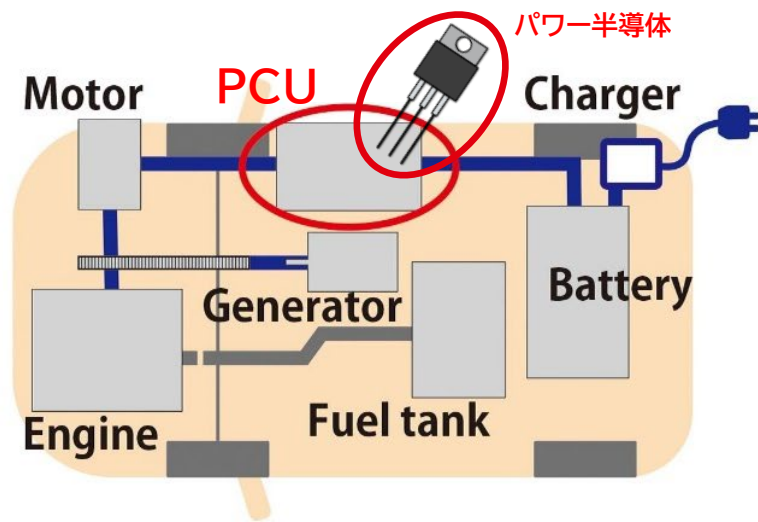
EV:  
電気自動車



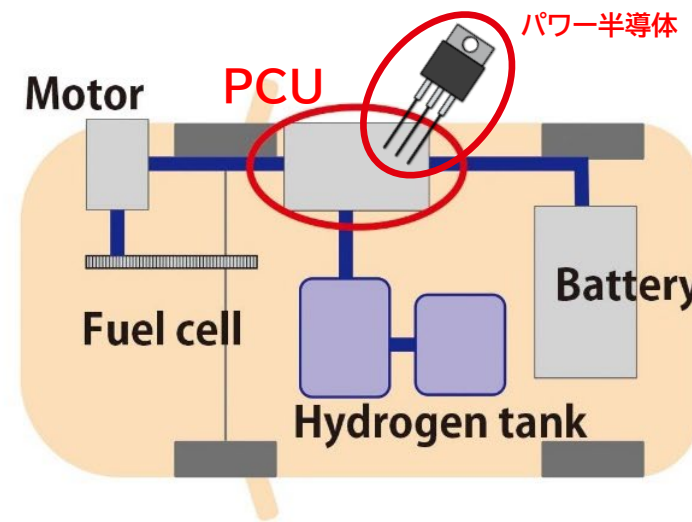
HEV:  
ハイブリッド  
自動車



PHEV:  
プラグイン・  
ハイブリッド  
自動車



FCEV:  
燃料電池  
自動車



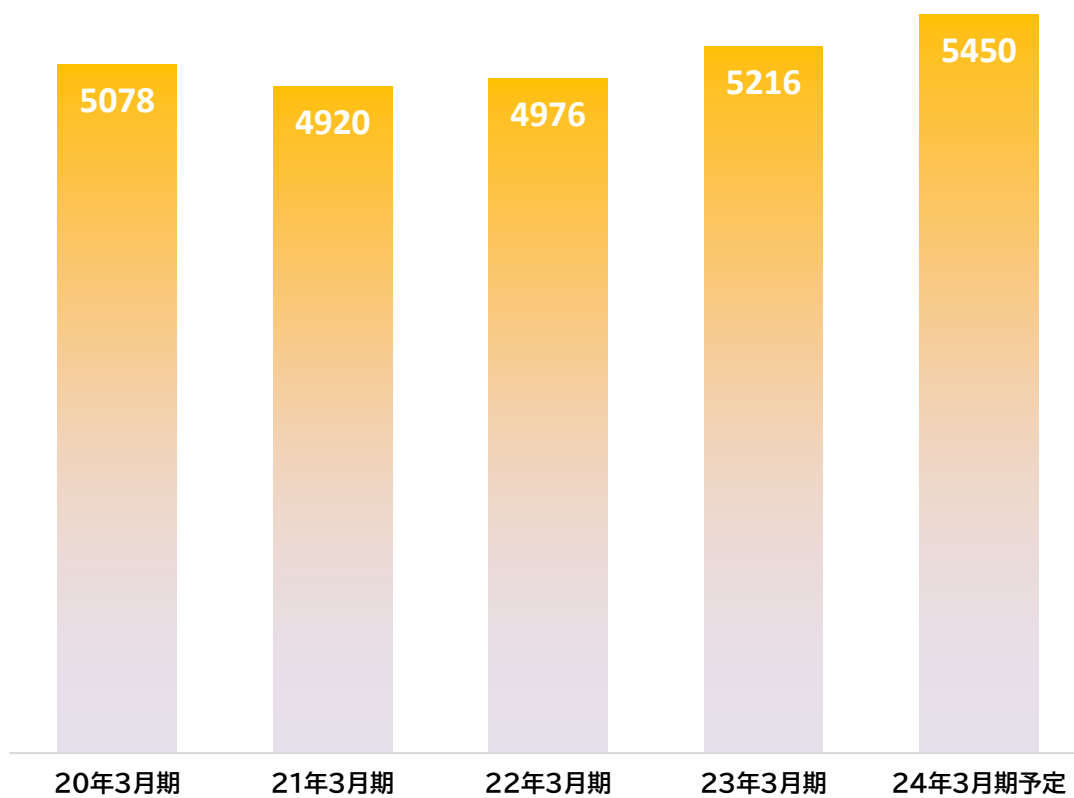


## 信頼性評価事業：主要顧客の動向

主要顧客の研究開発費動向について、デンソーは24年3月期は金額・比率共に上げる計画。  
 富士電機は、パワエレ、パワー半導体への積極的な開発投資を継続。  
※P.16参照

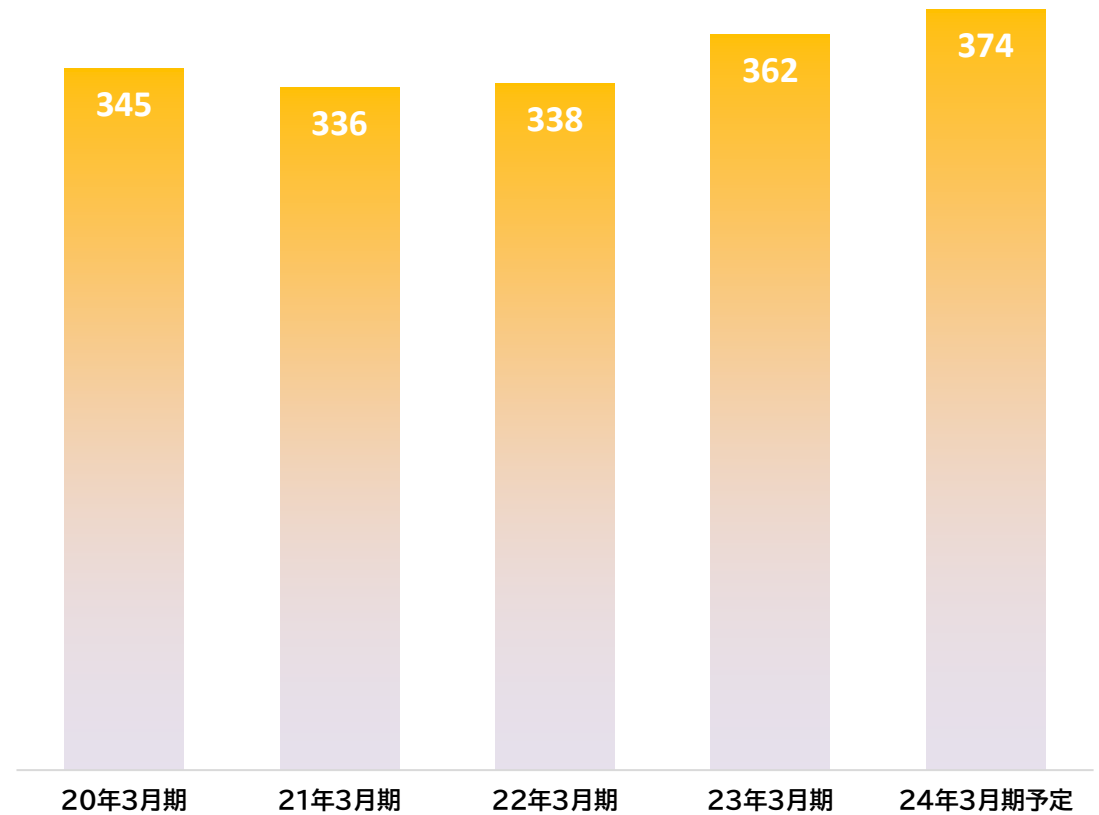
# 主要顧客の研究開発費推移

デンソー研究開発費(億円)



出所:デンソー2023年3月期決算説明会資料より

富士電機研究開発費(億円)

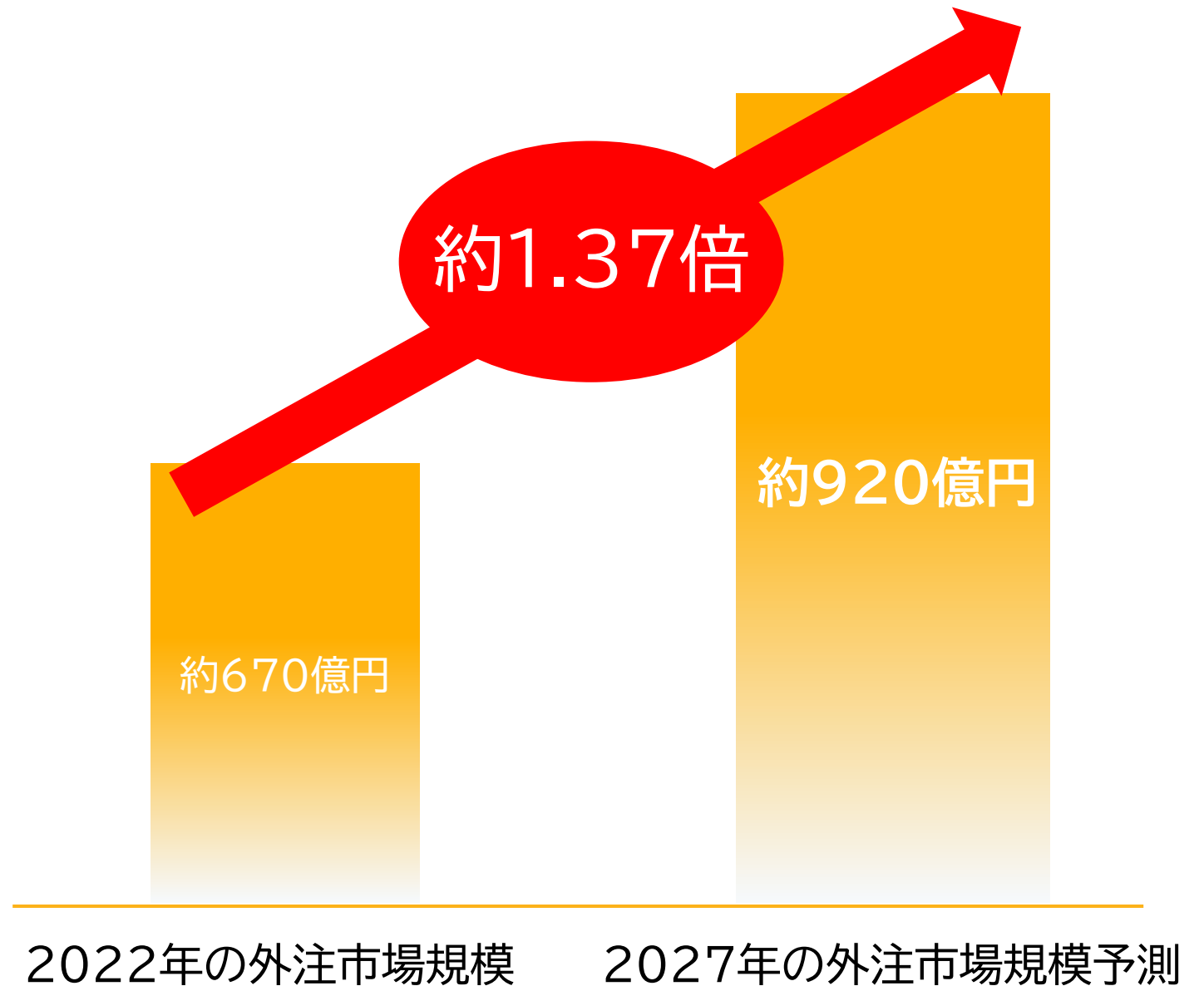


出所:富士電機2021年度、2022年度、2023年度経営計画

## 信頼性評価事業：市場見通し

2022年の国内信頼性評価事業の外注市場は、外注率を約5割と置いた場合、約670億円と推定。  
外注市場規模は、自動車等における試験業務増大&外注率増加により、2027年920億円に増大予測。

### 現在の 外注市場と 今後の動向



出所:Automotive Engineering Services Market” Markets and markets (2019/6) 他



①環境試験のサービス

## 電動車特有の部品に 対する環境試験の強化

防塵防水試験・耐候性試験、  
耐薬品・耐ガス試験、難燃性  
評価試験など。

②分析のサービス

## 高機能樹脂評価の 新規開拓

必要な分析機器(ラマン分光  
分析装置、熱分析装置群、  
VOCチャンバ)などを増強。



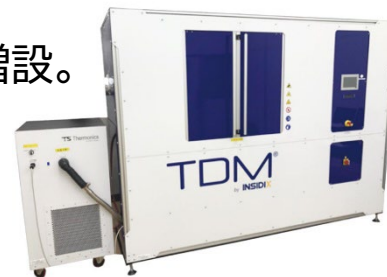
ラマン分光分析装置

③故障解析のサービス

## 故障解析技術の追求

非破壊観察可能な超音波顕微鏡を増設。

国内で唯一のTDM<sup>注1</sup>を設置。

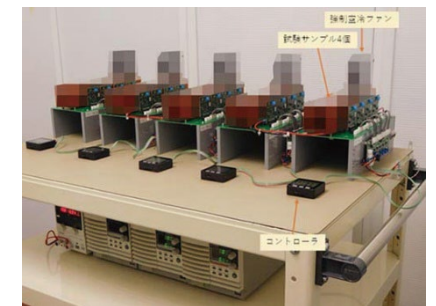


反り測定装置

④パワーサイクル試験のサービス

## 次世代半導体に対応した 新規試験拡大

パワーサイクル試験、連続通  
電試験、アバランシェ耐量試  
験、リカバリ試験、断続通電試  
験、経時的絶縁破壊試験など。



## 信頼性評価事業：販売戦略

- 中部地区においては、**大手企業**への営業活動および駐在によるサポート業務は手厚く展開。
- 関西地区においては、2022年に完成した**大手企業技術研究機関**への営業注力を活発化。
- 今後は九州地区において、**大手企業半導体産業**への積極営業を開始。

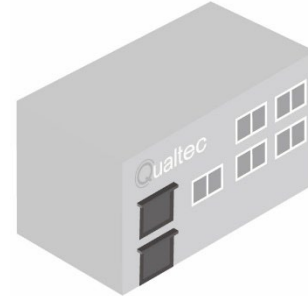


重点販売地域へ積極展開

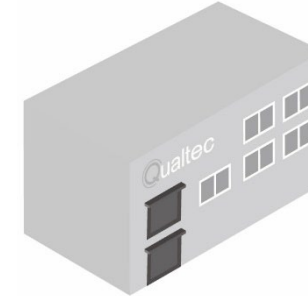


# パワエレ 試験センター (仮称) の建設

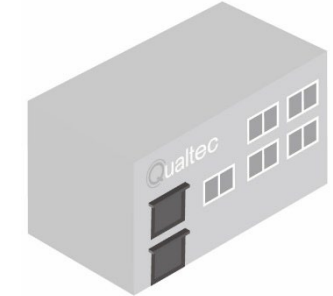
信頼性試験センター  
(堺市西区築港新町)



4号館  
(堺市堺区三宝町)



8号館  
(堺市堺区鉄砲町)



集約



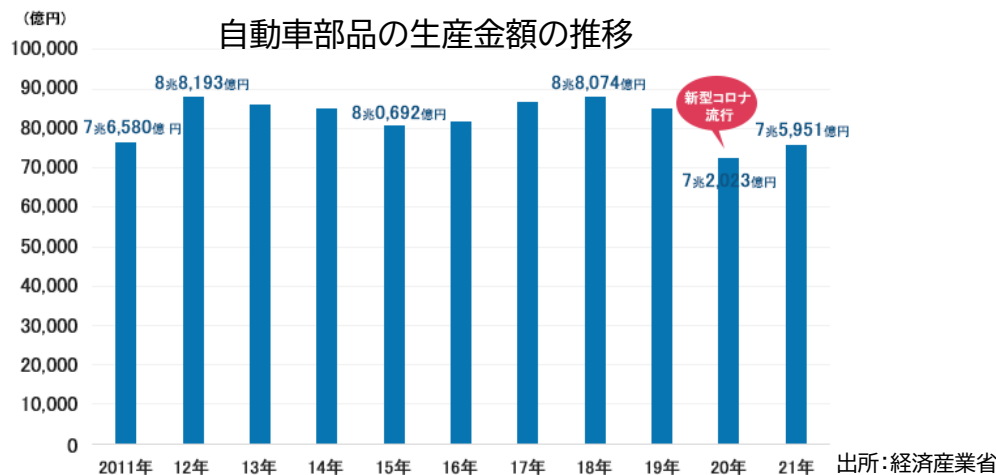
パワエレ試験センター  
(仮称・堺市内予定)

試験能力の増強を図り市場に展開  
(24年6月期から25年6月期にかけ建設予定)

# 微細加工事業：現在の注力市場

当社の微細加工事業の現在の注力市場は、①車載部品 ②ヘルスケア ③通信その他。  
 今後も各市場の拡大が予測され、当社への受注増が見込まれる。

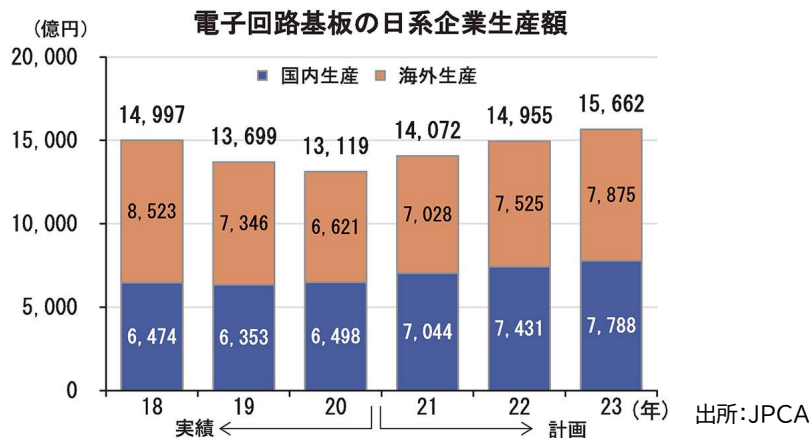
## ①自動運転に関連したカメラモジュール、ミリ波レーダ、照明用LED放熱基板などの車載部品



## ②医療機器、医療器具などのディスプレイ部品、超音波プローブ、カテーテル、マイクロ流路



## ③高周波基板、大電流基板、バスバー内蔵基板などの特殊プリント配線板



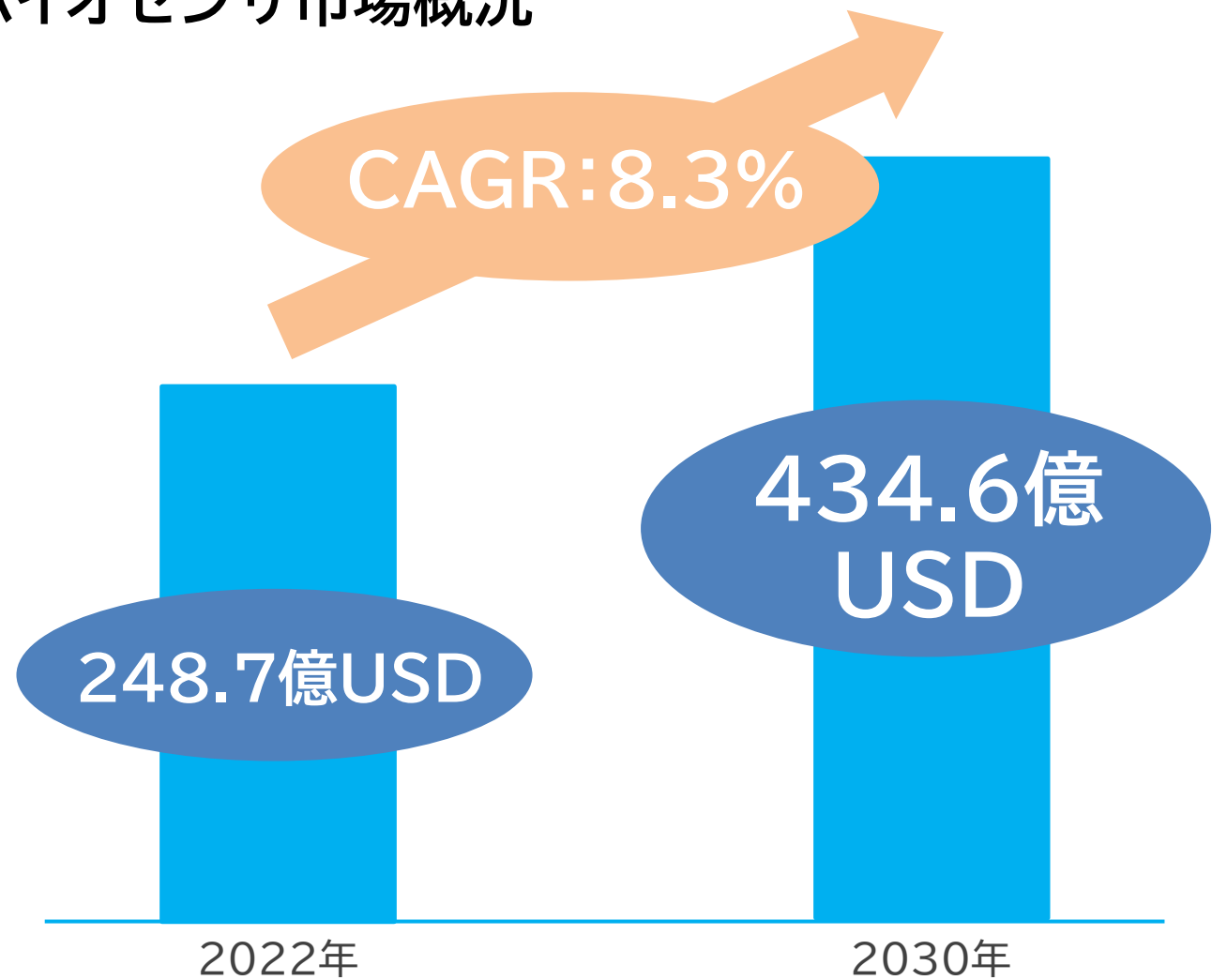
高付加価値  
 特殊用途  
 製品ライフの長い製品  
 の受注を目指す

## 微細加工事業：今後の注力市場

今後の注力市場はヘルスケア分野。特に、成長市場であり微細な加工が必要となるバイオセンサ市場に新規参入。開発サイクルが5年から10年と長く安定受注が見込め、参入障壁も高い。

バイオセンサ  
市場への  
新規参入

### バイオセンサ市場概況



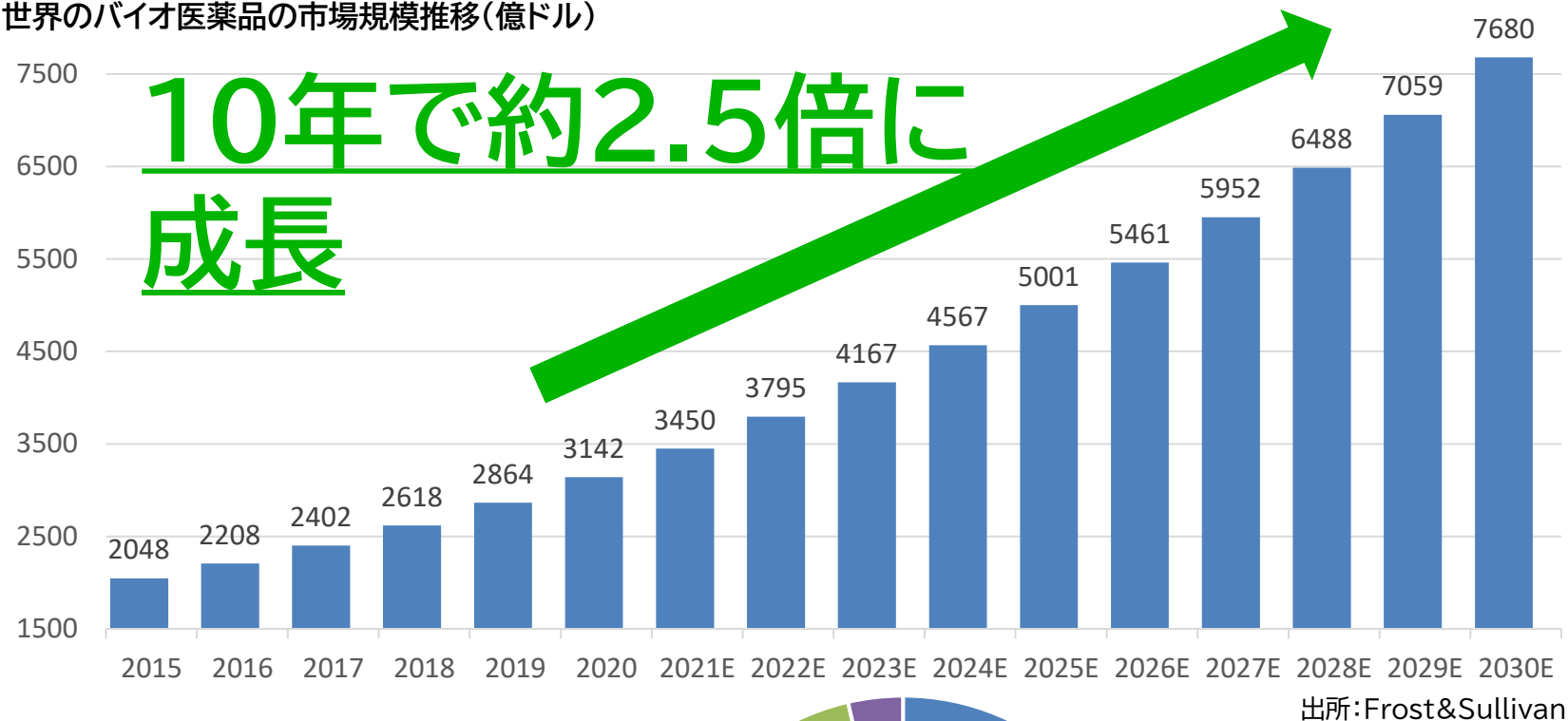
出所:SDKI/バイオセンサー市場—タイプ別(センサーパッチおよび埋め込みデバイス)、製品別(ウェアラブルおよび非ウェアラブル)、テクノロジー別、アプリケーション別、および地域別—世界的な予測2030年

## その他事業：今後の注力市場

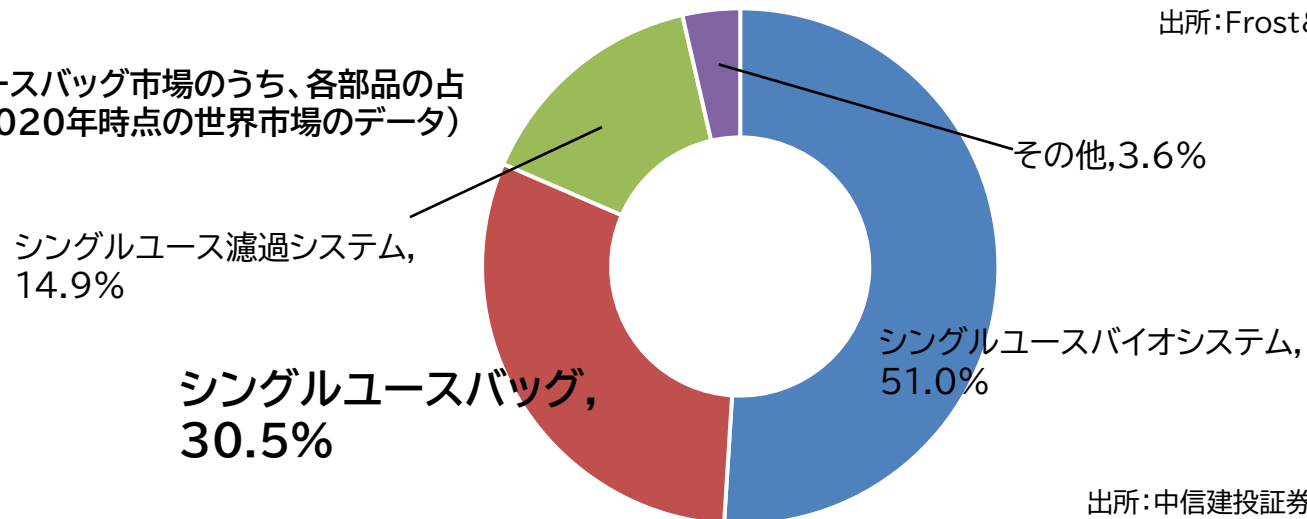
その他事業における成長戦略として、厚生労働省による「ワクチン生産体制等緊急整備事業」におけるバイオ医薬品の製造拠点を整備する事業が開始され、医薬品製造部品評価へ新規参入。世界のバイオ医薬品の市場規模推移は2020年から10年で約2.5倍、2030年には7,680億ドルの予測。

### 医薬品製造部品 市場成長予測

世界のバイオ医薬品の市場規模推移(億ドル)



シングルユースバッグ市場のうち、各部品の占める比率(2020年時点の世界市場のデータ)





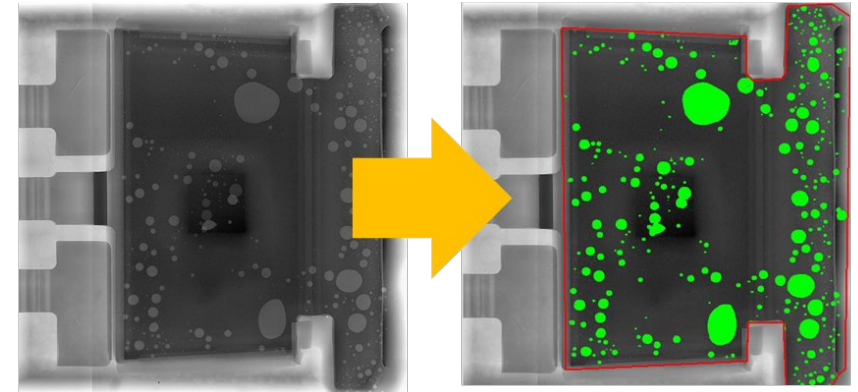


電動化の流れを受けた「パワー半導体とオートモーティブ」をキーワードにしたテーマで研究開発を行っており、多彩な技術を軸に自由な研究を推奨し、新たな事業分野を適宜開発。

# 研究開発力

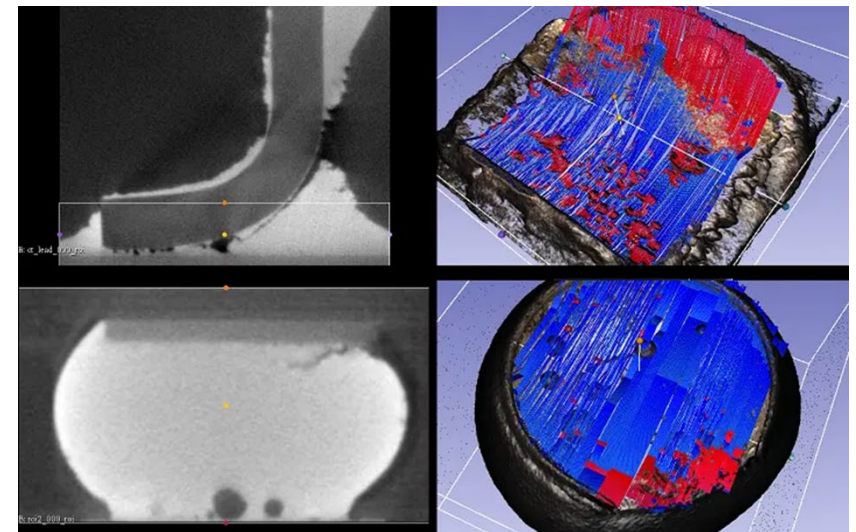
## AI 画像検査

パワー半導体に関する研究



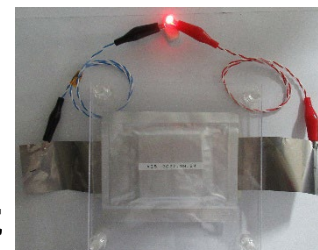
## 3D クラック検査

パワー半導体に関する研究



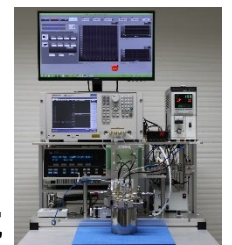
## 水系電気二重層 キャパシタ

オートモーティブに関する研究



## インピーダンス 測定システム

オートモーティブに関する研究



## エネルギー価格の高騰と価格改定について

2023/6期はエネルギー価格高騰の影響を受け減益となるも、5～10%の価格改定を実現。  
エネルギー消費の見直しなどにより、今後は価格改定効果がエネルギー価格の上昇をカバーする見込みに。

エネルギー価格高騰による費用増

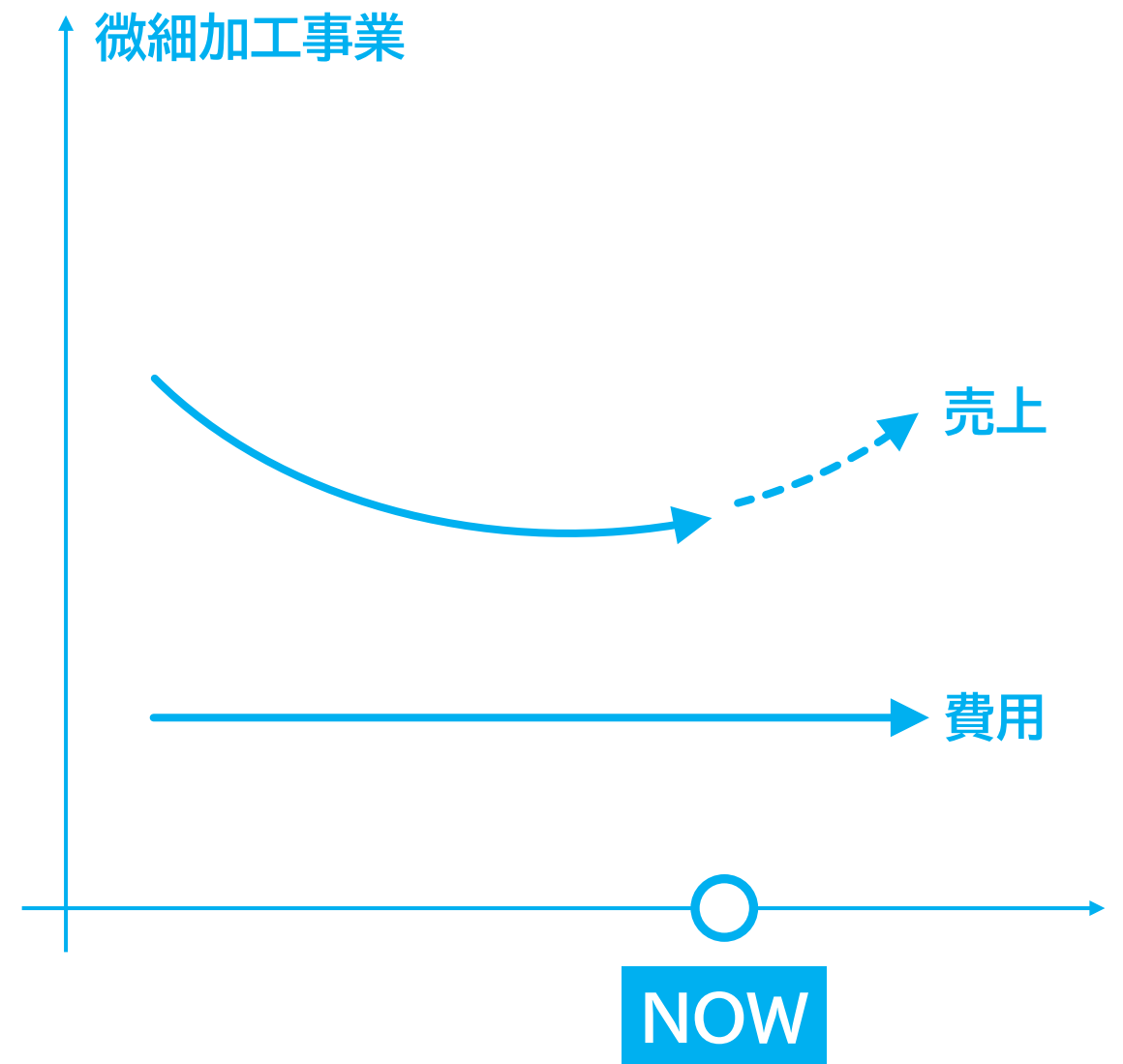
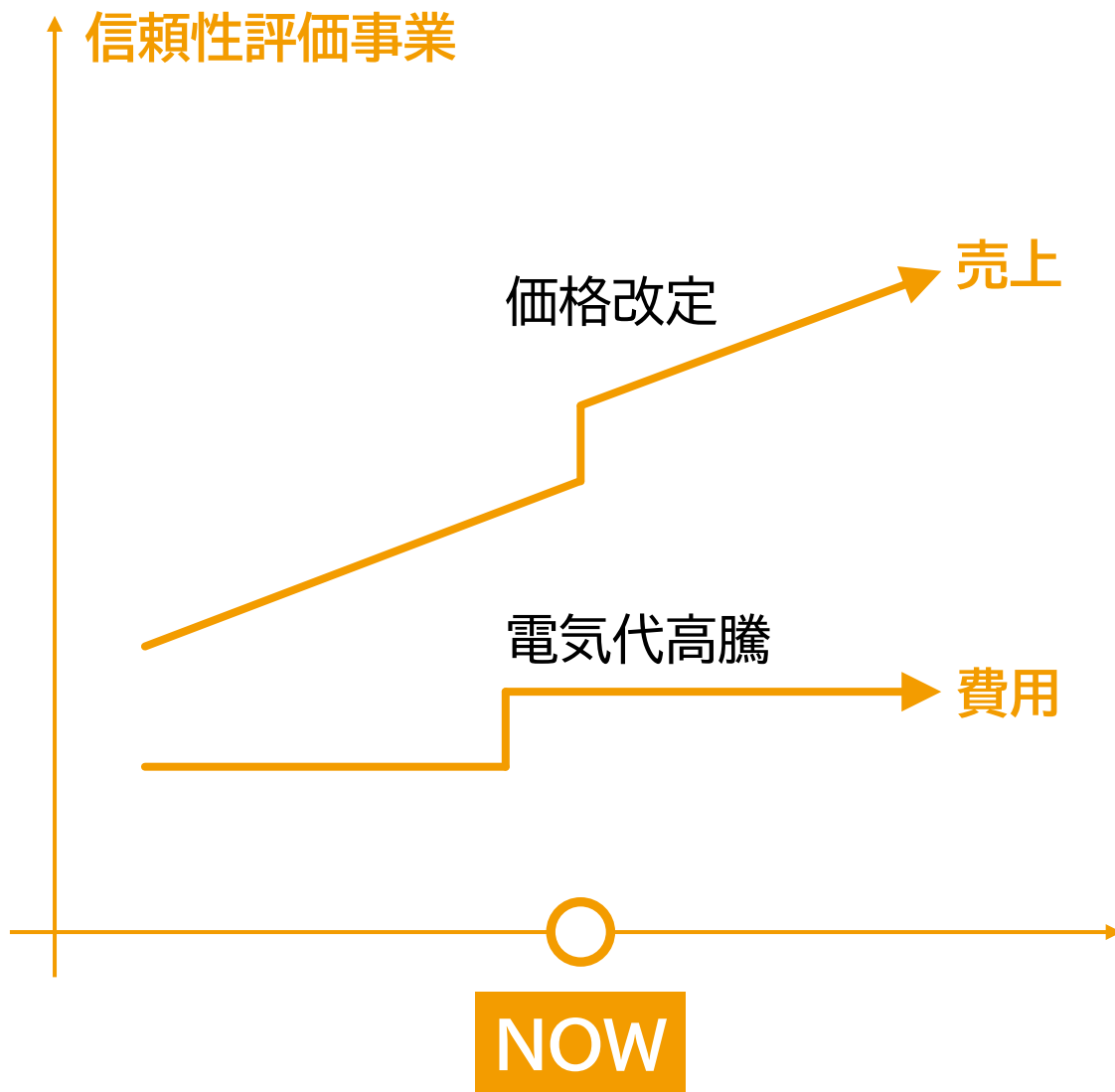
(23.6期より)

価格改定による  
増収効果

(2023年3月～)  
信頼性評価事業、微細加工事業で  
価格改訂の申し出  
5～10%の値上げ

## 主要2事業の成長戦略まとめ

- 信頼性評価事業は、市場拡大に合わせて安定成長を目指します。電気代高騰によるコスト増を価格改定でカバー。
- 微細加工事業は、対象市場の拡大により米中貿易摩擦以降の減速から再加速を目指します。



注:上記は成長戦略のイメージを示したものであり、実際の売上や費用の金額が上記のように推移することを保証するものではありません。



## 4 | 2023年6月期 決算概要

## 2023年6月期 実績

通期業績は前期より増収減益。売上高+119百万円、営業利益▲44百万円、当期純利益▲117百万円。

業績予想差では、当期純利益がIPO関連費用の当期処理他の影響で、▲11百万円。

【単位:百万円、%】 ( )内は売上高比

	22年6月期 実績		23年6月期 業績予想		23年6月期 実績		前期差	予想差
売上高		3,155		3,274		3,274	+119	±0
営業利益	(11.0%)	348	(9.3%)	305	(9.3%)	304	▲44	▲1
経常利益	(10.8%)	339	(9.3%)	303	(9.0%)	295	▲44	▲8
当期純利益	(10.4%)	327	(6.8%)	221	(6.4%)	210	▲117	▲11

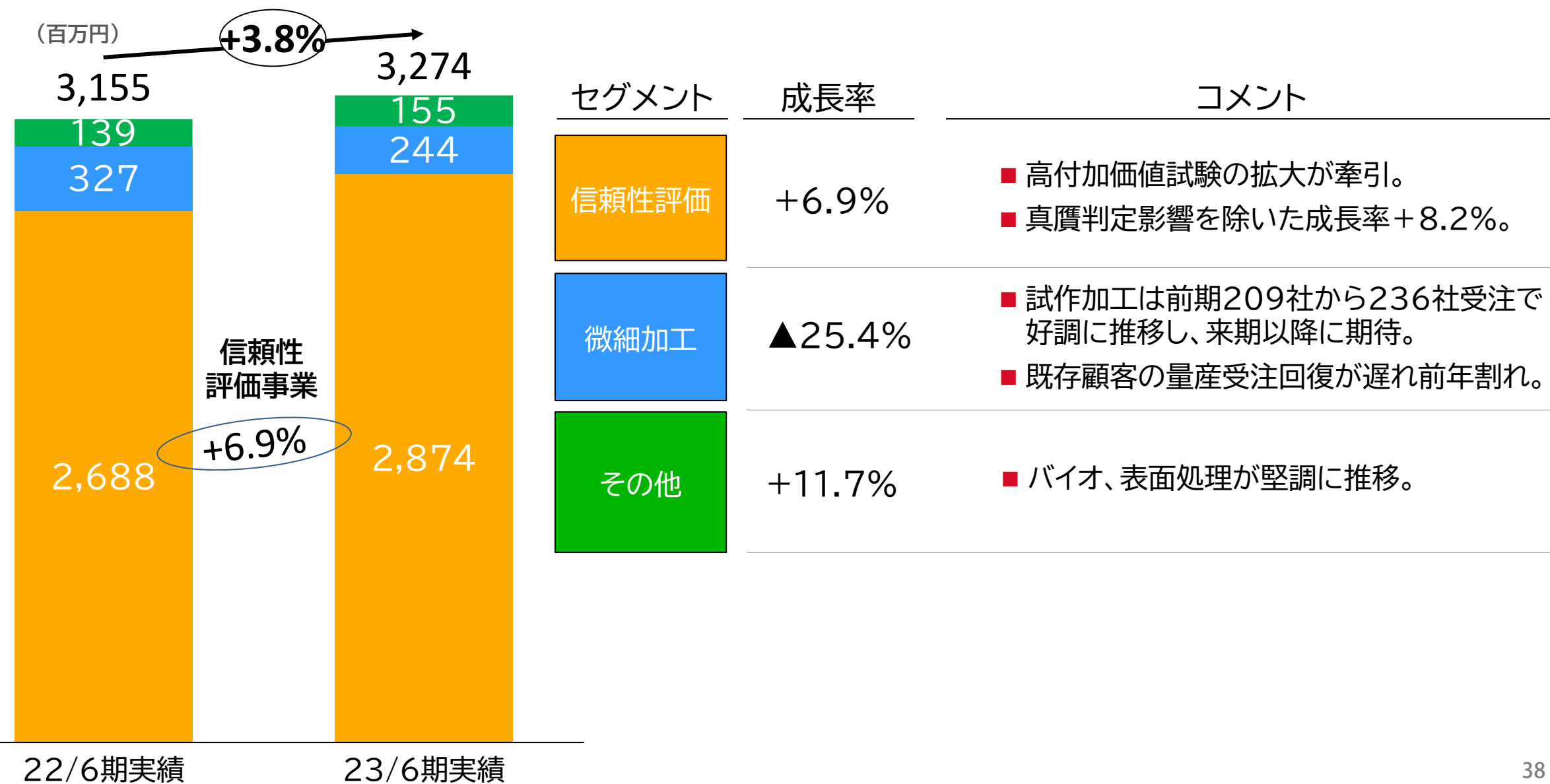
## セグメント別売上高（23/6期実績/対前期実績）

全社売上高は対前期+3.8%成長。

信頼性評価事業は前年特需要因であった真贋判定ビジネスが減収(▲30百万円)となるも、高付加価値検査の拡大が牽引し対前期+6.9%成長。真贋判定影響を除いた成長率は+8.2%。

微細加工事業は試作加工が好調で将来の種まきは出来ているも、既存顧客からの量産受注の回復が遅れ、対前期▲25.4%。

その他事業はバイオ、表面処理が堅調に伸び、対前期+11.7%成長。



## 営業利益増減内容（23/6期実績/対前期実績）

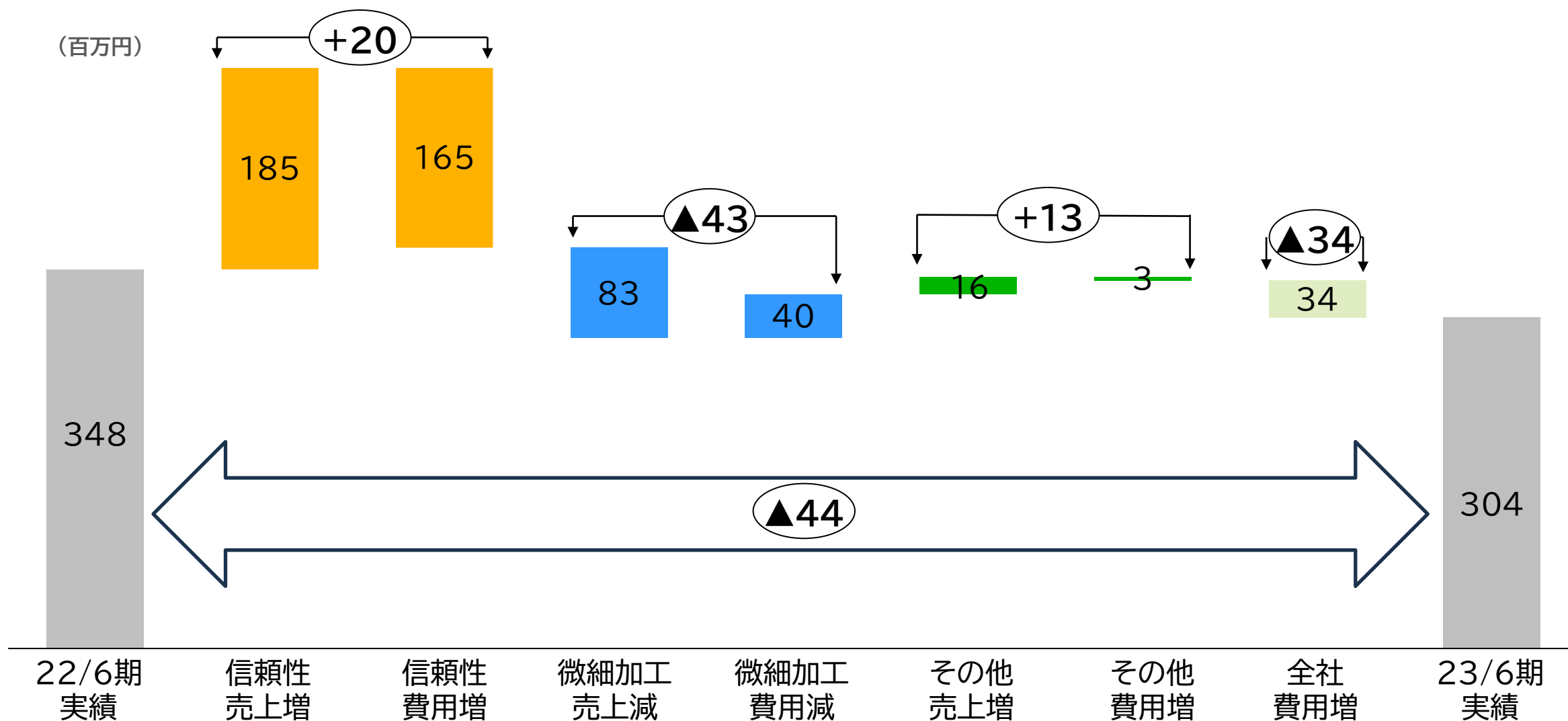
全社として対前期▲44百万円の減益。

信頼性評価事業は売上を伸ばしたものの、電力高騰や各種コストアップの影響により+20百万円の増益。

微細加工事業は売上を大きく落としたものの、コスト削減により▲43百万円の減益。

その他事業は売上増による利益増で+13百万円の増益。

全社コストは上場に向けた管理体制強化によるコスト増で▲34百万円の減益。



## 2023年6月期 実績（セグメント状況）



信頼性評価事業は堅調に推移し、前期より増収増益。  
 微細加工事業は売上低迷により、前期より減収減益。  
 その他事業はバイオ、表面処理の伸長で、前期より増収増益。

【単位：百万円、%】（ ）内は売上高比

信頼性評価事業	22年6月期 実績		23年6月期 実績		前期差
売上高		2,688		2,874	+185
営業利益	(28.7%)	772	(27.6%)	793	+20

微細加工事業	22年6月期 実績		23年6月期 実績		前期差
売上高		327		244	▲83
営業利益	(22.6%)	74	(12.6%)	30	▲43

その他事業	22年6月期 実績		23年6月期 実績		前期差
売上高		139		155	+16
営業利益	(17.0%)	23	(23.7%)	36	+13

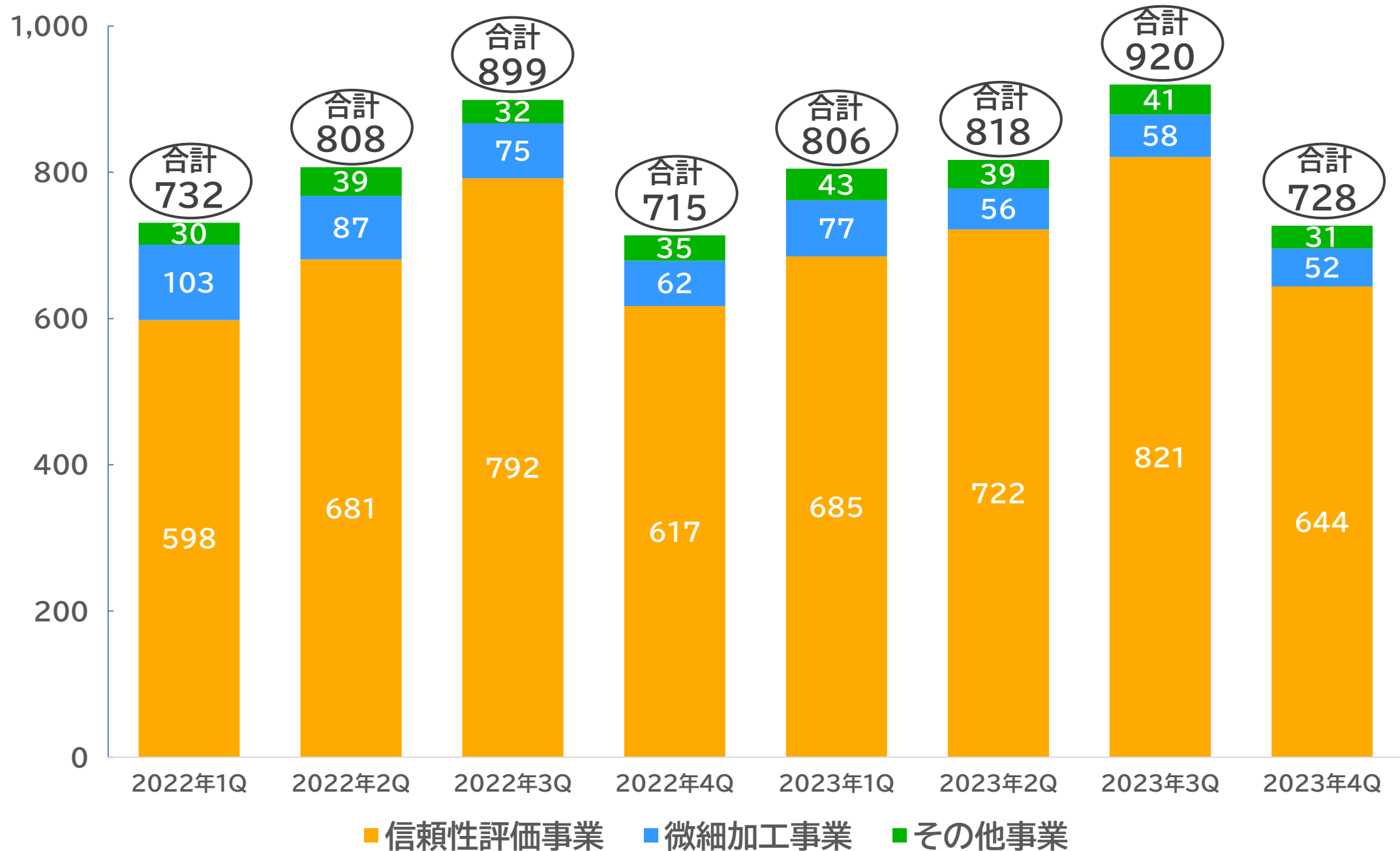


四半期推移 (セグメント状況)



売上実績の推移

【単位:百万円】



## 2023年6月期 実績（その他経営数値）



その他経営数値の状況は下記の通り。

【単位:百万円、%】（ ）内は売上高比

	22年6月期 実績		23年6月期 実績		前期差
総資産		3,397		3,177	▲220
純資産		2,246		2,380	+134
自己資本比率		66.1%		74.9%	+8.8%
キャッシュフロー		+197		▲148	▲346
現預金残高		1,460		1,263	▲197
設備投資		186		275	+89
研究開発費	(2.8%)	89	(2.6%)	83	▲6
在籍人員(人)		208		221	+13



## 5 | 2024年6月期 業績予想

## 業績予想

通期業績予想は前期より増収増益。売上高+22.1%、営業利益+103.5%、当期純利益+97.5%。

【単位:百万円、%】 ( )内は売上高比

	22年6月期 実績		23年6月期 実績		24年6月期 業績予想		前期比
	( )		( )		( )		
売上高		3,155		3,274		3,999	+22.1%
営業利益	(11.0%)	348	(9.3%)	304	(15.5%)	619	+103.5%
経常利益	(10.8%)	339	(9.0%)	295	(14.4%)	576	+95.1%
当期純利益	(10.4%)	327	(6.4%)	210	(10.4%)	414	+97.5%

## 3ヶ年の業績推移

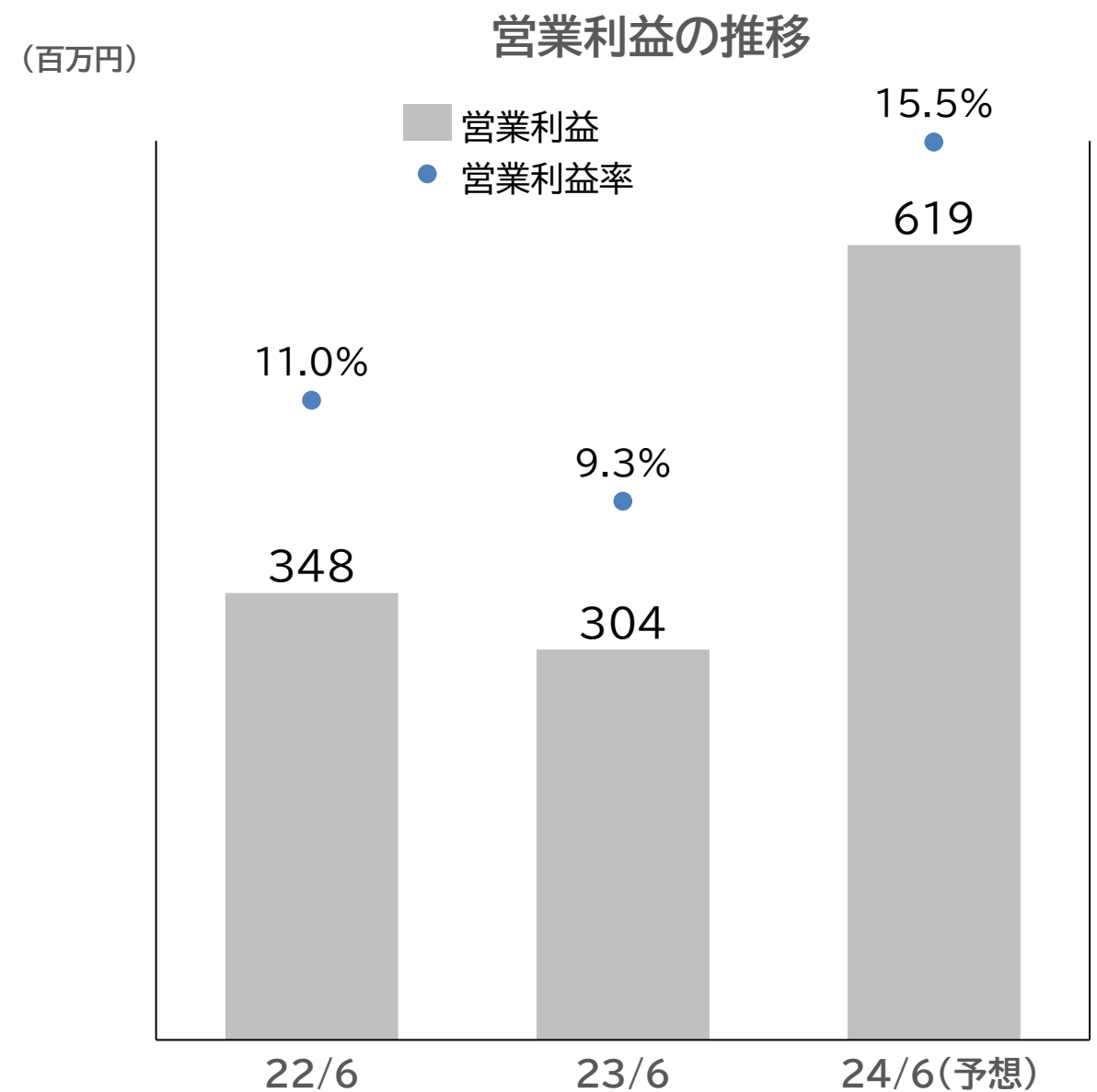
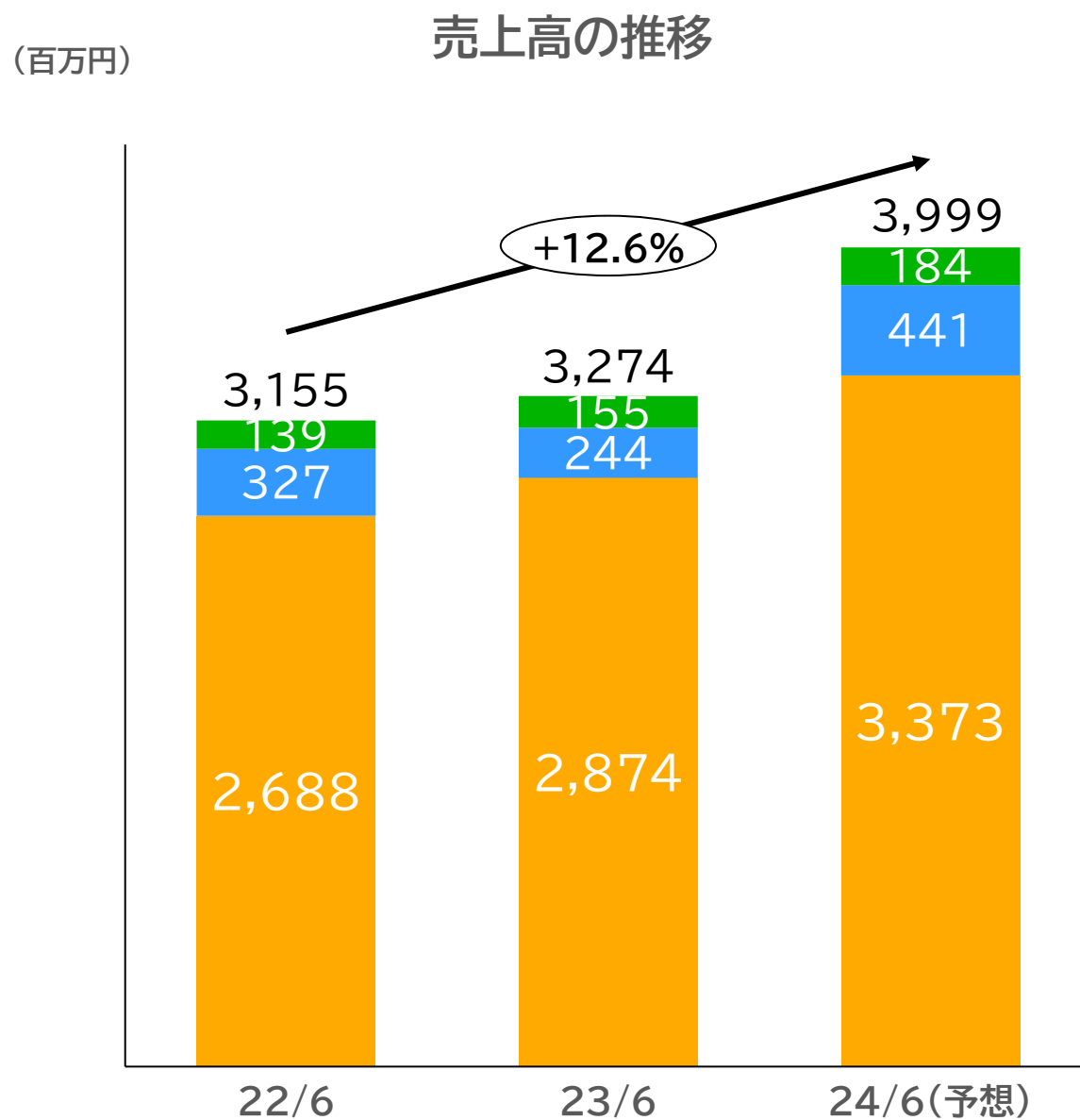
売上高は対前期+22.1%成長。価格是正影響を除くと+17.4%成長。22/6期からのCAGR+12.6%。

信頼性評価事業は対前期+17.4%成長。価格是正影響を除くと+12.7%成長。

微細加工事業は対前期+81.1%成長。価格是正影響を除くと+73.0%成長。

その他事業は対前期+18.7%成長。

営業利益は対前期+103.5%成長で営業利益率15.5%の予想。



## 営業利益増減内容（24/6期業績予想/対前期実績）

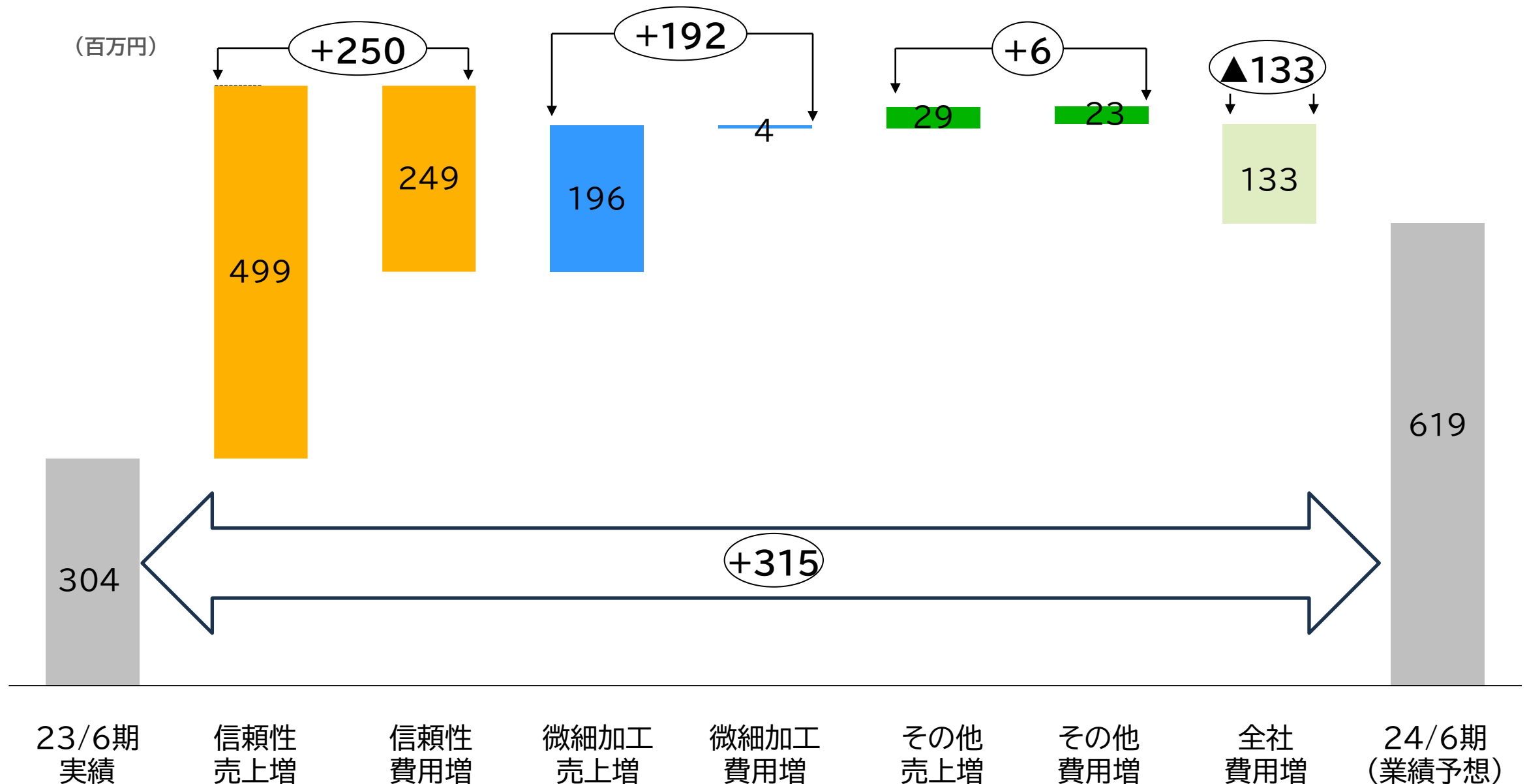
23/6期からの増益は売上増が大きな要因。全社で前期比倍増の増益予想。

信頼性評価事業は市場成長と連動した拡売に向け、人員・設備増強を図り+250百万円の増益。

微細加工事業は顧客情報に基づく量産再開に加え、バイオセンサ量産試作開始等で+192百万円の増益。

その他事業はバイオ受託ビジネスの本格化により+6百万円の増益。

全社コストは情報セキュリティ体制強化、営業・管理部門体制強化等で133百万円の費用増を見込む。



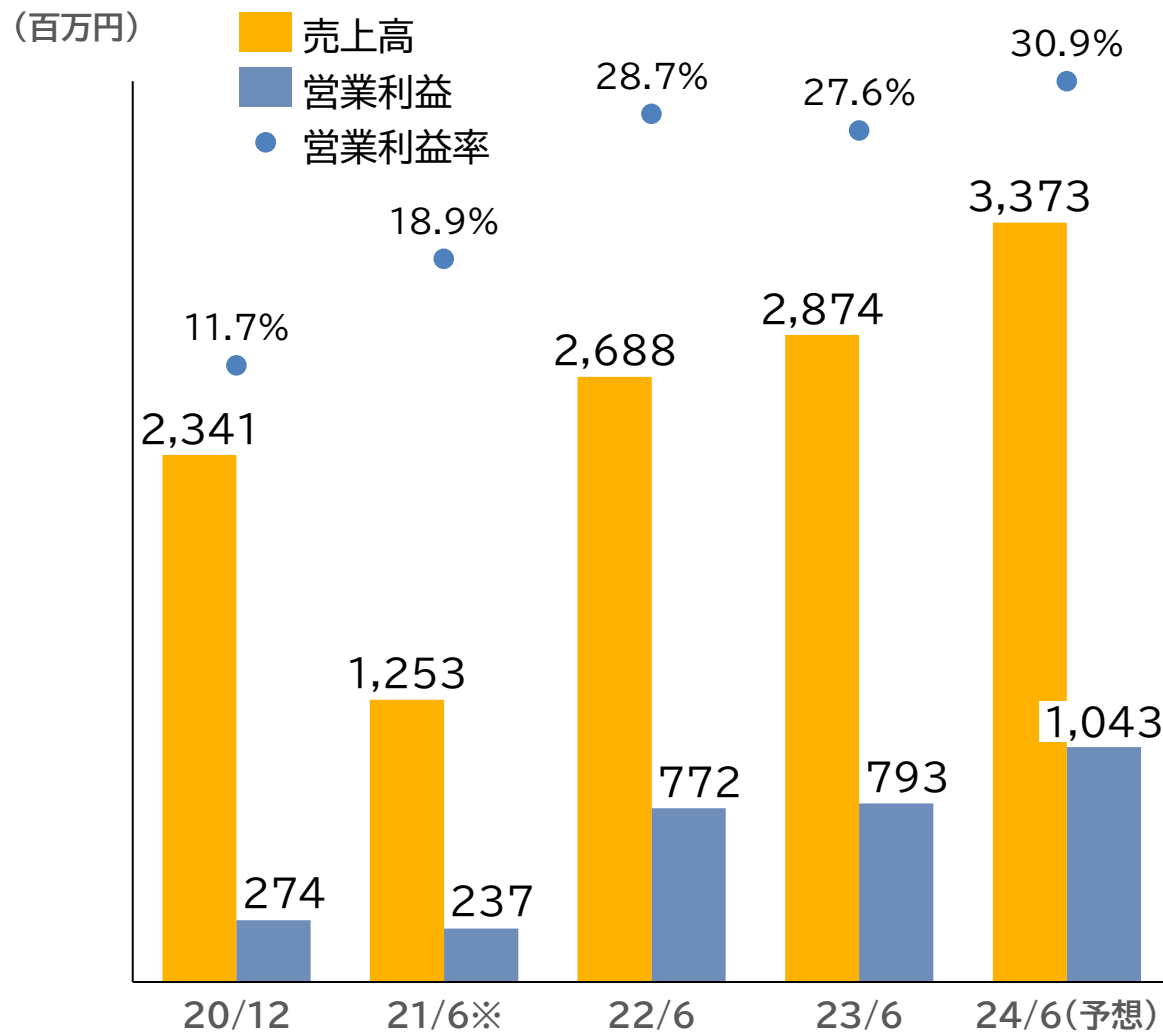
# セグメント別業績推移



信頼性評価事業の売上は一貫して成長し、24/6期は売上高3,373百万円、営業利益1,043百万円の予想。

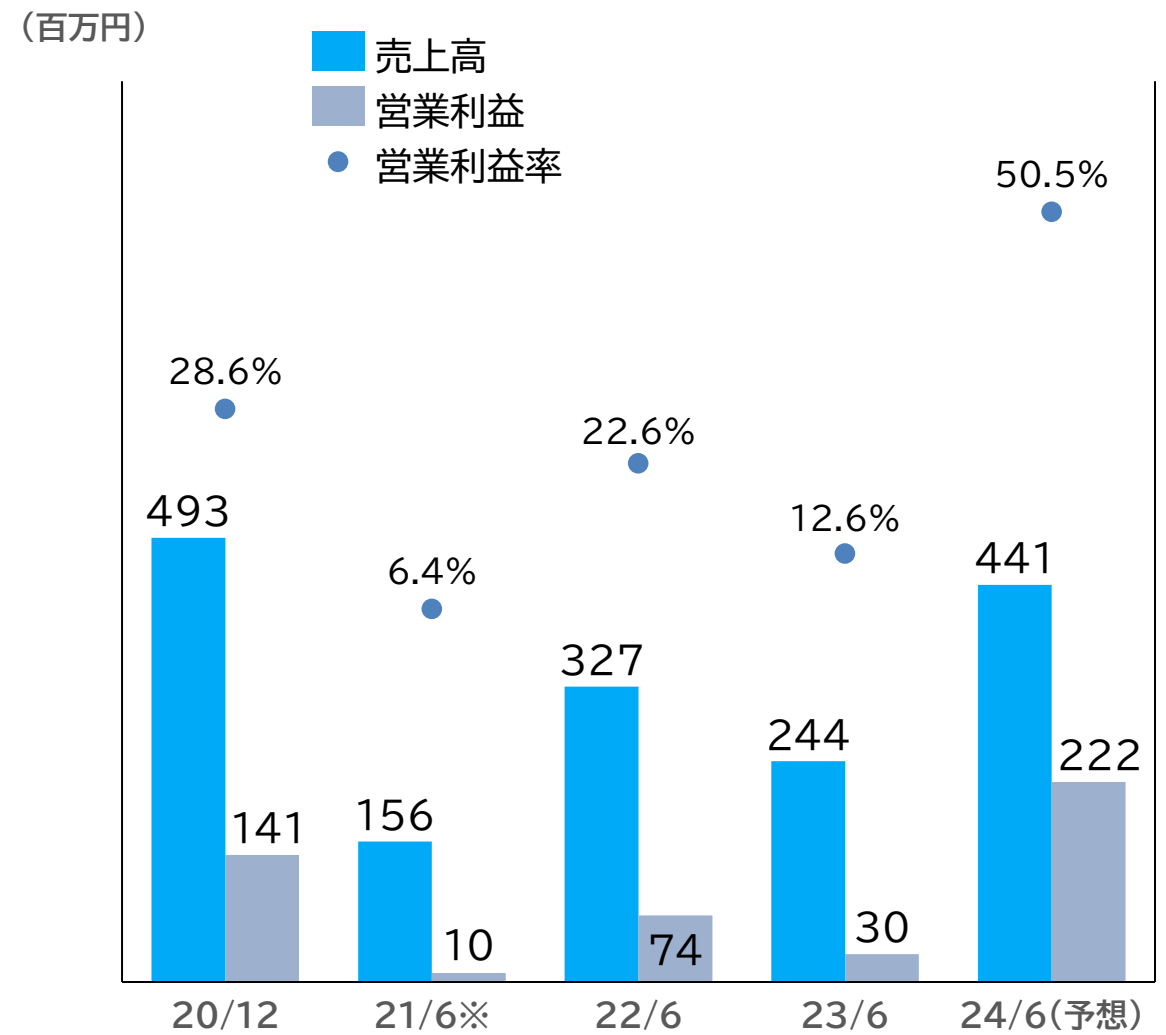
微細加工事業はここ数年、半導体不足やコロナ禍の影響から低迷していたが、24/6期は売上高441百万円に反転予想。営業利益は222百万円の予想。

### 信頼性評価事業の業績推移



変則決算のため  
6ヶ月分の数字

### 微細加工事業の業績推移



変則決算のため  
6ヶ月分の数字



## 6 | 附錄



## 事業等のリスク①

当社が経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している事業等のリスク(抜粋)は、以下の通りであります。

なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社が判断したものであります。

こちらに記載以外のリスクについては、有価証券届出書の「事業の状況」2事業等のリスク」をご参照ください。

リスク項目	リスクの内容	対応策
<b>①市場環境に関するリスク</b>		
自動車業界の構造変化に伴う業績変動リスク (顕在化の可能性:中/影響度:大/発生時期:特定時期なし)	自動車業界の構造の変化 ・2030年のガソリン車廃止方針 ・同業界企業との間でシェア争い	・積み上げてきた実績・技術を背景として国内外の顧客基盤の拡充
競合他社、新規参入に関するリスク (顕在化の可能性:中/影響度:大/発生時期:特定時期なし)	新規参入企業の増加や当社の技術力を上回る国内外の企業が出現 ・新規参入企業の増加や当社の技術力を上回る国内外の企業が出現する可能性 ・市場競争が激化し、当社が市場における競争力を維持できない場合や、顧客が競合他社のサービスに移行した場合には、当社の経営成績及び財政状態に影響	・独立系検査会社であり第三者機関としての責務を果たすため、日々技術力の向上に努め、顧客の高水準のニーズに対応することで、競合他社と比較して優位性を確保 ・既存顧客との関係強化や新規顧客への取引拡大により、各事業における競争優位性を維持・向上させる事業活動
<b>②事業に関するリスク</b>		
特定顧客への依存リスク (顕在化の可能性:中/影響度:大/発生時期:特定時期なし)	信頼性評価事業における自動車業界の顧客向けの売上割合 ・同社グループの業績等が変動した場合には、当社の経営成績及び財政状態に影響	・新たに見込まれる需要の取り込み ・自動車業界以外への業界シェア拡大
人材確保及び育成に関するリスク (顕在化の可能性:中/影響度:大/発生時期:特定時期なし)	少子高齢化・による労働人口の減少 ・計画通りの人材確保・育成が困難	・優秀な人材の確保・人材育成 ・安全で働きやすい職場環境づくり・社員教育

## 事業等のリスク②



リスク項目	リスクの内容	対応策
<b>③法的規制に関するリスク</b>		
コンプライアンスに関するリスク (顕在化の可能性:中/影響度:大/発生時期:特定時期なし)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的信頼の喪失</li> <li>・従業員の身体的、精神的不安や金銭的損害</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス規程を整備</li> <li>・法令遵守の啓蒙活動や内部監査などを通じた検証</li> </ul>
知的財産権に関するリスク (顕在化の可能性:中/影響度:大/発生時期:特定時期なし)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護が不十分であった場合あるいは違法に侵害された場合</li> <li>・他社の有する知的財産権を侵害したと認定され、損害賠償等の責任を負担する場合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特許権の取得により知的財産権の保護</li> </ul>
<b>④その他のリスク</b>		
災害の発生等によるリスク (顕在化の可能性:中/影響度:大/発生時期:特定時期なし)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震等の自然災害や火災・事故等による、従業員や試験設備等の被害</li> <li>・売上高の減少や試験設備等の修復又は代替のための費用の発生</li> </ul>	-
地政学的リスク (顕在化の可能性:中/影響度:大/発生時期:特定時期なし)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物価の高騰や為替相場の変動等により景気動向が減速</li> <li>・顧客の業績悪化、投資行動の急激な変化</li> </ul>	-

# 注意事項

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。

これら将来の見通しに関する記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予測に関する記述には、必ずしも既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証しておりません。

assists your "thinking"

Qualtec

